

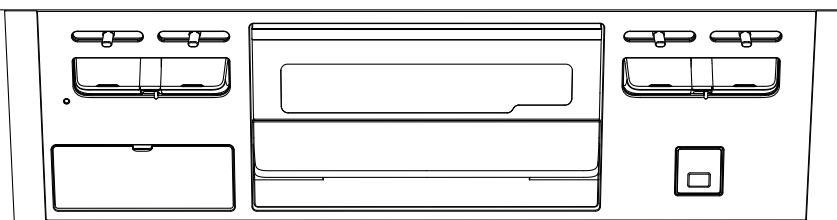
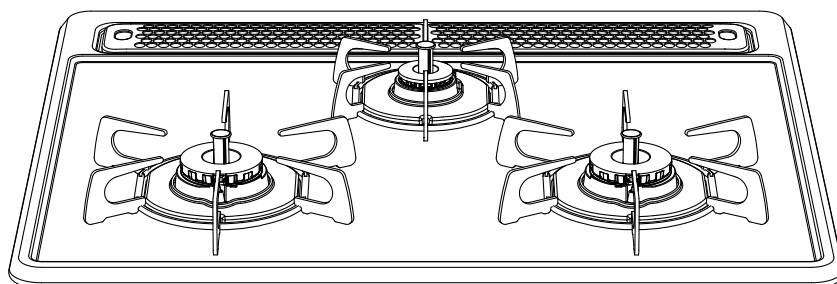
ビルトイン ガスコンロ

家庭用

品 番

SG32T1V・SG32T1L
EG32T1V

品番の頭には「JUG」などのキッチンシリーズを示す英字が入ります。



このたびは、ビルトインガスコンロをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

よく読んで安全に正しくお使いください

- この取扱説明書は、いつでも利用できる場所に大切に保管してください。
- この取扱説明書の46ページが保証書になっています。
お買い上げ日、販売店名、保証内容などをよく確認し、大切に保管してください。
- 来客者などが機器を使用するときは、その前に必ず取扱説明書の内容を説明してください。
- この機器は家庭用ですので、業務用のような使いかたをされますと、著しく寿命が短くなります。
- この機器は国内専用です。海外では使用できません。
- 本書を紛失された場合や、ご不明な点があればお買い上げの販売店または、コンタクトセンター(0120-38-8180)にお問い合わせください。



36566300

Tカ63

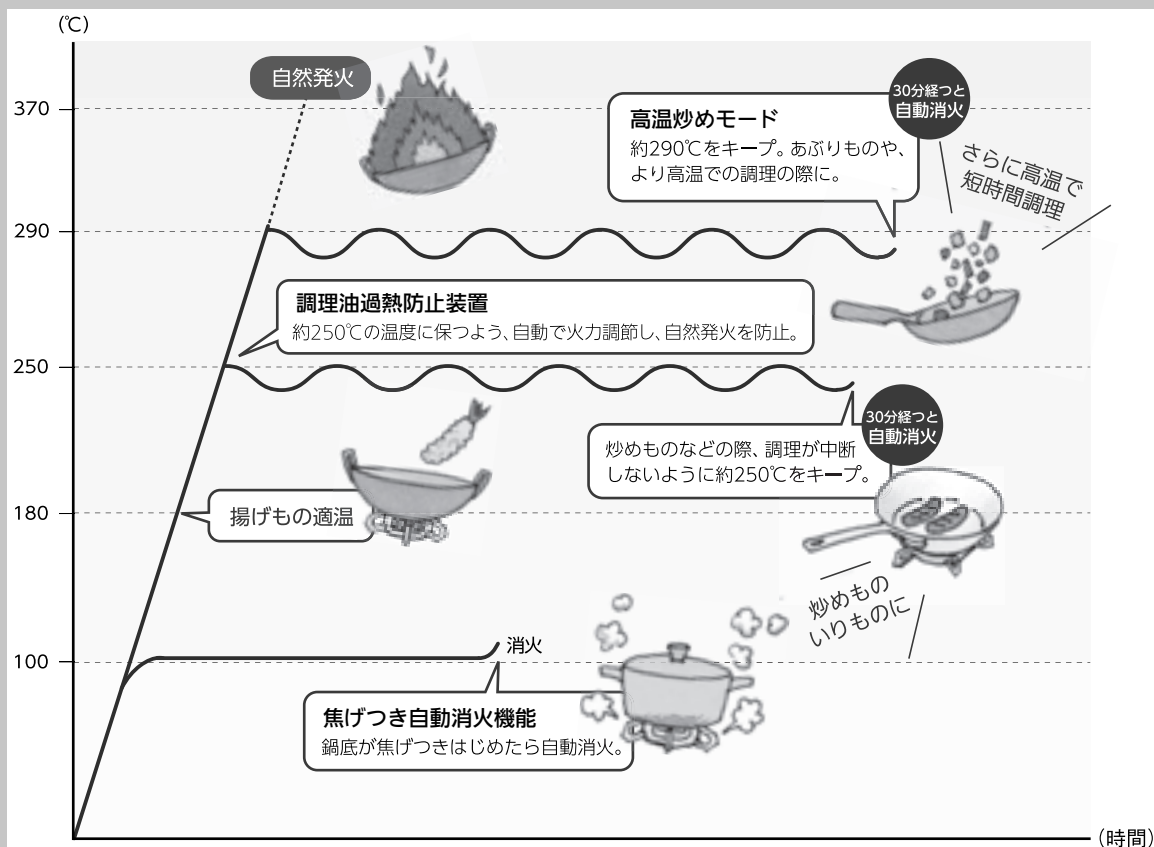
Siセンサーコンロについて

Siセンサーコンロ

全口センサー搭載

安心(Safety)、便利(Support)、笑顔(Smile)を約束する、
賢い(Intelligent)センサーを搭載した、進化したコンロです。

温度センサーのはたらき



◎風や煮こぼれで火が消えた場合、
自動的にガスを止めます！

立消え安全装置

◎万一消し忘れても、一定時間で自動消火します！

消し忘れ消火機能

◎天ぷら油の過熱を未然に防止します！

調理油過熱防止装置

◎煮ものなどで焦げついた場合、
鍋を傷める前に自動消火します！

焦げつき自動消火機能

とくに多いご質問です

・使用していないのにブザー音がする

お知らせ機能がはたらいているためです。

自動消火した場合、点火／消火ボタンを戻し忘れると、1分おきにブザー音『ピピッ』(5回)でお知らせします。

戻し忘れたまま放置すると、乾電池の消耗が早くなります。必ず点火／消火ボタンを押し、「消火の状態」に戻してください。

※他のバーナーを使用中は、ブザー音は鳴りません。



・勝手に火が小さくなったり、火が消えたりする

安心・安全機能がはたらいているためです。

自動的に火力を弱火に調節したり、自動消火し、高温になり過ぎることを防止します。

また、高温炒めキーを押すと、通常時より高温での調理ができますが、異常過熱を防止するために自動的に火力を弱火にします。また、温度センサーの温度が上がりすぎたり、約60分(高温で自動火力調節している状態の場合は約30分)連続使用すると、消し忘れ消火機能がはたらき自動消火します。

※自動火力調節で弱火になっている場合は、火力を強くしても受け付けません。

※火力調節位置より一瞬炎が大きくなる場合があります。異常ではありません。



・電池交換サインが点滅している

乾電池が消耗しているためです。

新品のアルカリ乾電池(単1形：2個)と交換してください。

乾電池を交換する(電池交換サイン点滅)めやすは約1年です。(付属の乾電池は、お試し用のため、新品のアルカリ乾電池と比較して寿命が短くなります。)



※内の数字は、参照ページを示しています。

もくじ

各部のなまえ 3

安全なご利用のために

必ずお守りください(安全上の注意) .. 5

このコンロについて

安心・安全機能／お知らせ機能 ... 14

乾電池を交換する 16

毎日の使いかた

コンロを使う準備 17

コンロの使いかた(基本操作) 19

高温炒めモード(右コンロ) 21

グリルを使う準備 23

グリルの使いかた 25

長くご利用いただくために

日常点検とお手入れ 27

お手入れ 29

よくあるご質問 35

ブザー報知とお知らせ表示 41

長期間使用しない場合／仕様 43

アフターサービス／廃棄時のお願い .. 44

交換部品／別売部品 45

保証書 46

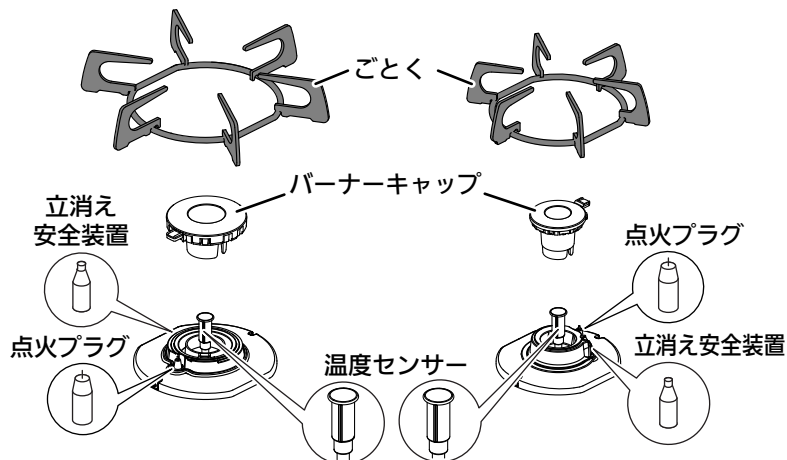
各部のなまえ

・取り付け方法については、「お手入れ」(29～32ページ)を参照してください。

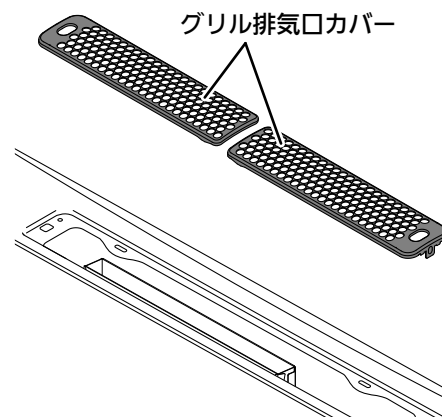
コンロ部

左右コンロ

後コンロ



グリル排気口部



警告ラベル

注意・防火性能
評定品ラベル

トッププレート

電池ケースふた

※乾電池の交換方法については、
「乾電池を交換する」(16ページ)
を参照してください。

パネル部

左パネル

右パネル

左コンロ用火力調節つまみ

後コンロ用火力調節つまみ

グリル用火力調節つまみ

右コンロ用火力調節つまみ

電池交換サイン

左コンロ用
点火/消火ボタン

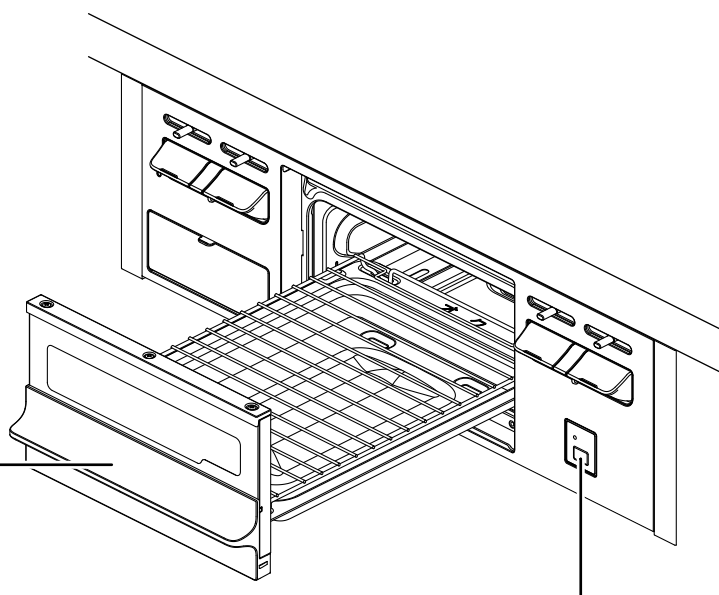
左、後コンロ用
ロックつまみ

後コンロ用
点火/消火ボタン

グリル用
点火/消火ボタン

グリル、右コンロ用
ロックつまみ

右コンロ用
点火/消火ボタン



操作部

※保護シートが貼ってある場合があります。使用する際には取り外してください。

右コンロ

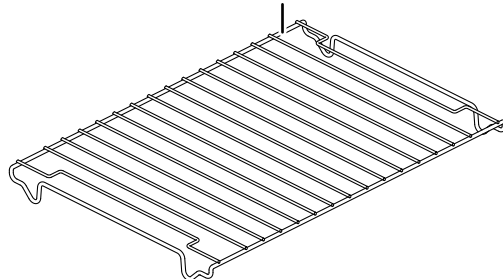
●
3秒押し

高温
炒め

高温炒めキー

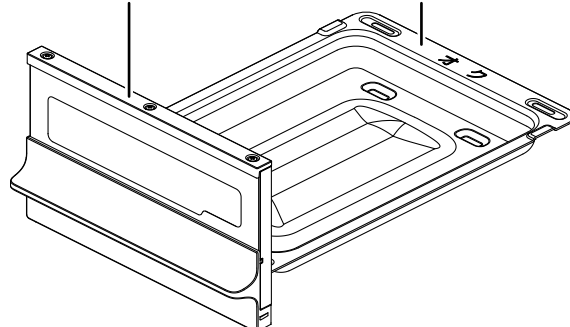
グリル部

グリル焼網



グリルとびら

グリル受け皿



必ずお守りください（安全上の注意）

■このコンロの設計上の標準使用期間は製造から10年です

本製品は、設計上の標準使用期間※を10年と算定しておりますので、製造年から10年前後をめどに、点検または取り替えをおすすめいたします。（製造年月の確認のしかたは、銘板の確認方法（13ページ）をご覧ください。）

設計上の標準使用期間を過ぎてそのまま使用を続けると、劣化により思わぬ事故につながるおそれがあります。

※設計上の標準使用期間とは、標準的な使用条件の下で、適切な取り扱いで使用し、適切な維持管理が行われた場合に、安全上支障なく使用することができる標準的な期間として設計上設定される期間になります。

この年数の算出条件は一般社団法人日本ガス石油機器工業会が定めた自主基準を基にしています。

「無料修理保証期間」とは異なりますのでご注意ください。（無料修理保証期間は保証書を参照願います。）

使用条件によっては、設計上の標準使用期間より早く劣化が起きる可能性があります。

安全に正しく使用していただくために必ずお読みください

使用される方や他の方への危害、財産への損害を未然に防止するために、つぎのような区分、表示をしています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ずお守りいただき、内容を理解して正しく使用してください。

■危害、損害の程度による内容の区分

	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険または、火災が切迫して生じることが想定される内容です。
	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性または、火災が想定される内容です。
	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が軽傷を負う可能性および物的損害のみが発生する可能性が想定される内容です。
	安全に快適に使用していただくために、理解していただきたい内容です。

■注意、禁止内容の絵表示

					
---	---	---	---	---	---

ガス漏れに気づいたときは

危険



火気禁止

- ・絶対に火をつけない
- ・電気器具（換気扇など）のスイッチの入／切をしない
- ・電源プラグの抜き差しをしない
- ・周辺で電話を使用しない

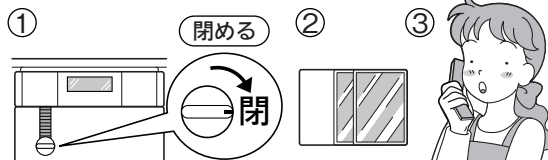
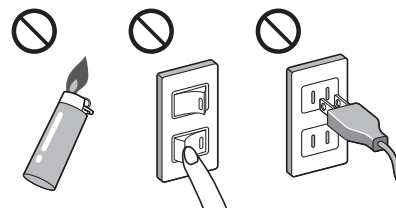
火や火花で引火し、爆発事故を起こすことがあります。



必ず守る

- ・すぐに使用をやめる

- ①火を消し、ガス栓を閉める。
- ②窓や戸を開け、ガスを外に出す。
- ③お買い上げの販売店または、もよりのガス事業者（供給業者）に連絡する。



異常時

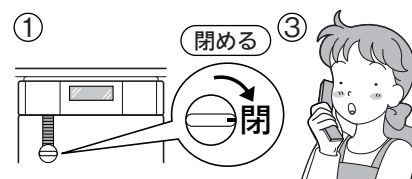
警告



必ず守る

- ・点火しない場合または、使用中に異常な燃焼、臭気、異常音などを感じたときは、すぐに使用をやめる

- ①火を消し、ガス栓を閉める。
 - ②『よくあるご質問』（35～40ページ）、『ブザー報知とお知らせ表示』（41～42ページ）に従い、処置をする。
 - ③上記の処置をしても、直らない場合は、お買い上げの販売店または、もよりのガス事業者（供給業者）に連絡する。
- ・地震、火災などの緊急の場合は、ただちに使用を中止し、ガス栓を閉める



使用時や使用後は



- ・点火、消火のあとは、必ず炎を確かめる
火災や思わぬ事故の原因になります。
※また、使用後は、ガス栓を閉めてください。

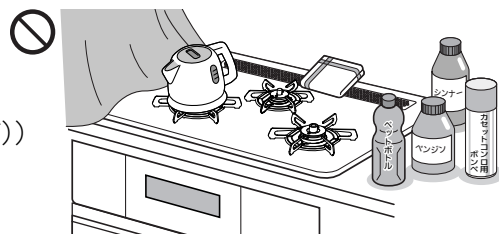


- ・使用するバーナーの点火／消火ボタンを確認してから点火操作をする
間違って操作すると、別のバーナーが点火して、火災や思わぬ事故の原因になります。
- ・点火操作をしても点火しない場合は、点火／消火ボタンを押し、「消火の状態」に戻し、周囲のガスがなくなってから再度点火する
すぐに点火操作をすると、周囲のガスに引火して衣服に燃え移ったり、やけどをするおそれがあります。

機器周辺には



- ・爆発のおそれがあるもの、引火しやすいものや燃えやすいものを機器の近くで使用したり、置いたりしない
- ・熱で圧力が上がるもの(スプレー缶、カセットコンロ用ボンベなど)
爆発のおそれがあります。
- ・引火しやすいもの(スプレー、ガソリン、ベンジンなど)
- ・燃えやすいもの(樹脂製品、電気製品、可燃物(ふきん、タオル、カーテン、調理油、新聞紙、ビニールシートなど))
火災の原因になります。



- ・調理以外の用途には使用しない
練炭の火起こしや衣類(ふきんなど)の乾燥などに使用しないでください。異常過熱、異常燃焼による機器焼損、火災の原因になります。



- ・補助具(アルミはく製する受け、省エネごとくなど)は、機器に付属または機器指定の補助具以外、使用しない
一酸化炭素中毒や機器の異常過熱のおそれがあります。



- ・グリルに指定以外の容器やプレートを入れて使用しない
一酸化炭素中毒や機器の異常過熱のおそれがあります。



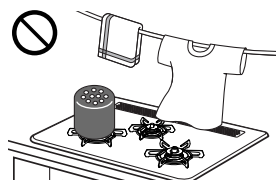
- ・焼網は使用しない
トップレートに落ちた油などが発火したり、機器の異常過熱のおそれがあります。



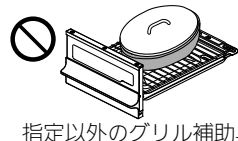
- ・コンロをおおうような、大きな鉄板や鍋は使用しない
不完全燃焼をおこしたり、機器の異常過熱のおそれがあります。



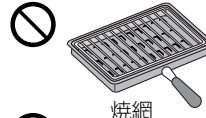
- ・スマートフォン、IT機器を使ってビルトインガスコンロを操作する外付け装置※は、安全性を確認できないため使用しない
※点火を含む操作部付近に設置し、インターネット通信などを介して操作できる装置。



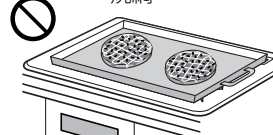
アルミはく製する受け 省エネごとく



指定以外のグリル補助具



焼網



- ・グリルとびら、電池ケースふたなどに、ものをのせたり、強い力を加えない
けが、機器損傷の原因になります。

必ずお守りください (安全上の注意)

使用中は



禁止

- ・火をつけたまま離れない
- ・火をつけたまま就寝や外出は絶対にしない

調理中のものが焦げたり燃えたりするなど、火災の原因になります。
※とくに天ぷらや揚げもの調理、グリルを使用しているときは注意してください。

電話や来客の場合は、一旦火を消してください。

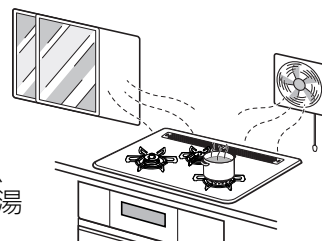


換気する

- ・必ず換気をする

窓を開けたり換気扇を回すなど、換気を行ってください。
換気を行わずに、他の燃焼機器と同時に使用した場合など、不完全燃焼による一酸化炭素中毒の原因になります。

※屋内設置(密閉式は除く)の給湯器やふろがまを使用している場合は、換気扇を回さず、窓を開けて換気をしてください。換気扇を回すと給湯器やふろがまの排気ガスが逆流して一酸化炭素中毒の原因になります。



禁止

- ・点火操作時や使用中は、バーナーとグリル排気口付近に顔や手などを近付けない
- ・グリルとびらを開けた状態でグリルを点火しない

炎や熱で顔や手などに、やけどをするおそれがあります。



接触禁止

- ・使用中や使用直後は操作部以外には触れない

機器本体とその周辺や調理用具の熱で、やけどのおそれがあります。

- ・1カ所のみコンロを使用している場合でも、使用していないコンロ側のトッププレートも熱伝導で熱くなる場合があります。
- ・グリルのみを使用してもグリルバーナーの炎や排気の熱により、トッププレートやグリルとびらのガラスが熱くなります。



必ず守る

- ・つかまり立ち、伝い歩きをする乳幼児がグリルとびらでやけどしないように注意する

やけどやけがなど思わぬ事故の原因になります。



禁止

- ・グリル排気口にふきんや異物を入れない

火災の原因になります。また、思わぬ事故や故障の原因になります。

※ふきんや異物が入った場合は、コンタクトセンター(0120-38-8180)にお問い合わせください。



必ず守る

- ・子供だけで使わせたり、乳幼児が触れないように注意する

やけどやけがなど思わぬ事故の原因になります。

乳幼児が触れても点火しないよう、ロック機能を設定することができます。(18ページ)



禁止

- ・操作部などのすき間に異物を入れない

思わぬ事故や故障の原因になります。

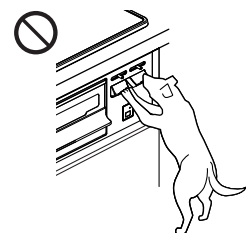
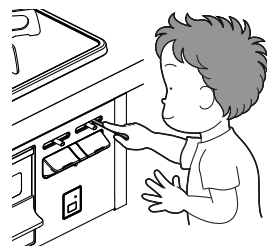


必ず守る

- ・ペット(犬や猫など)を室内で飼っている場合、機器を使用しないときは点火/消火ボタンをロックする、またはガス栓を閉める

ペット(犬や猫など)が機器や流し台に飛び乗ろうとしたり、飛びかかった際に誤って点火/消火ボタンを押してしまうことがあります。
ペットがやけどをしたり、火災のおそれがあります。機器を使用しないときは、点火/消火ボタンをロックしてください。(18ページ)

または、ガス栓を閉めてください。



使用中は

- 警告**

！ **必ず守る**

 - ・コンロ使用中は、身体や衣服が炎に近付かないように注意する
衣服に炎が移って、やけどをするおそれがあります。
また、温度センサーがはたらいて炎が自動的に大きくなったり、風で炎があおられて鍋底からあふれ、衣服に移ることがありますので注意してください。
-
- 注意**

！ **必ず守る**

 - ・エアコン、扇風機などの風がコンロの炎にあたらないように配慮して使用する
風があたると温度センサーが鍋底の温度を正しく検知できず、炎が途中で消えたり機器損傷の原因になります。
 - ・やかんや鍋などの大きさに合わせて火力を調節する
はみ出した炎により、やかんや鍋の取っ手などが過熱され、やけどや取っ手などの焼損の原因になります。

揚げものの調理の際は

- 警告**

禁止

 - ・高温炒めモードで揚げものの調理をしない
調理油の温度が高くなり、発火するおそれがあります。
 - ・耐熱ガラス容器や土鍋など、熱が伝わりにくい容器で油料理をしない
調理油過熱防止装置が正常に作動せず、調理油が発火するおそれがあります。
 - ・揚げものは食材全体が十分につかるまで調理油(必ず200mL以上)を入れて行う
調理油の量が少なかったり、減ってきたりすると、発火するおそれがあります。
とくに、フライパンなどの底が広い鍋で揚げものをする際は、食材全体が調理油に十分につかっていないと、発火するおそれがあります。
- 警告**

禁止

 - ・冷凍食材を鍋の底面中央に密着させた状態で揚げものをしない
鍋の底面中央(温度センサーの接触位置)に冷凍食材が密着した状態で揚げものの調理をすると、温度センサーが鍋底の温度を正しく検知しないため、発火するおそれがあります。
食材は中央部を避けて置いてください。
- 禁止**

- ・複数回使った調理油で揚げものをしない
何回も使用して茶褐色に変色した調理油、にごった調理油、揚げカスなどが沈んだまま残っている調理油は使用しないでください。発火するおそれがあります。
- 禁止**

- ・揚げすぎない
豆腐などの水分の多いものや、衣つきのコロッケなどの破裂しやすいものは、とくに注意してください。揚げすぎると油が飛び散り、発火や、やけどのおそれがあります。
-
- 注意**

！ **必ず守る**

 - ・調理油過熱防止装置がはたらいたときは、鍋や油の温度が相当高くなっているため注意する
やけどやけがの原因になります。

- 警告**

禁止

 - ・調理油の廃油凝固剤使用時に油を加熱するときは、絶対に機器から離れない
廃油凝固剤の分量を守り、油の温度が上がりすぎないように注意し、溶けたらすぐに消火してください。廃油凝固剤を入れすぎたり、加熱しすぎると、発火するおそれがあります。

温度センサーは

- 警告**

禁止

 - ・温度センサーの改造や取り外しでの使用は行わない
温度センサーが正しくはたらかなくなり、火災の原因となります。

必ずお守りください (安全上の注意)

コンロ編

温度センサーは(続き)

⚠ 注意



禁止

- ・強いショックを加えたり、キズをつけない

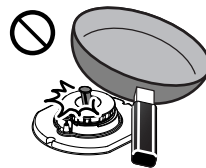
鍋底に温度センサーが密着しなくなり、調理油が発火する場合があります。
また、温度センサーが故障すると安心・安全機能が作動しない場合があります。



必ず守る

- ・こまめにお手入れし、上下にスムーズに動くことを確認する

鍋底に温度センサーが密着しなくなり、調理油が発火する場合があります。
また、動きが悪いと鍋などが傾き、お湯などがこぼれ、やけどの原因にもなります。密着しない場合、点検、修理を依頼してください。



温度センサー



上下にスムーズに動くことを確認

鍋などについて

⚠ 警告



禁止

- ・温度センサーの上面と鍋底やフライパンの底などが密着していないときは使用しない
- ・鍋底やフライパンの底などに異物や著しい汚れ、焦げなどが付着したまま使用しない

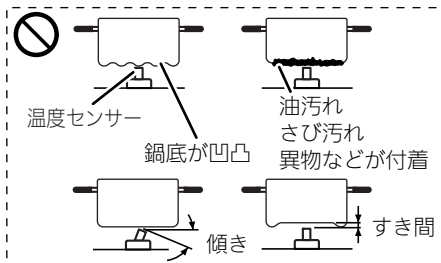
温度センサーが鍋底やフライパンの底などの温度を正しく検知できずに、発火や途中消火、機器焼損の原因になります。



必ず守る

- ・鍋の重さは、調理物を含め300g以上で調理する

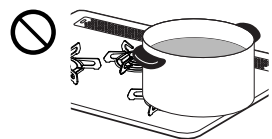
とくに片手鍋は調理物の重さが軽くなると温度センサーの力により、鍋やフライパンなどが押し上げられて傾いたり、ずれ落ちる場合がありますので、取っ手を持って安定した状態で使用してください。



禁止

- ・鍋などが、トッププレートからはみ出した状態では使用しない

火災や機器焼損の原因になります。



禁止

- ・石焼きいもつぼなどの空焼きをする調理用具は使用しない

異常過熱による機器損傷の原因になります。



禁止

- ・片手鍋、底がへこんだ鍋や底が丸い鍋、底がすべりやすい鍋、径の小さい鍋などは、不安定な状態で使用しない



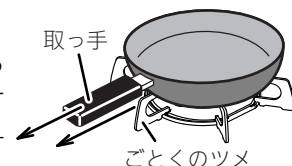
必ず守る

- ・片手鍋などは、調理中に鍋のふたを取ったり、水分の蒸発などにより調理物の重さが軽くなると、温度センサーの力により押し上げられ、傾いたりずれ落ちる場合があるので取っ手を持って使用する

不安定な状態で使用すると、鍋の種類によっては、鍋が傾いたり滑って調理物が体にかかるなどしてやけどの原因になります。

- ・片手鍋やフライパンなど、重心が片寄った鍋は不安定な状態にならないよう、取っ手をごとくのツメ方向に合わせる、取っ手を持って使用する、取っ手などを機器の前面からはみ出さないよう横に向けて置くなど、安定した状態で使用してください。

- ・中華鍋などの底の丸い鍋は、取っ手を持ちながら使用してください。



取っ手

取っ手とごとくのツメの方向を合わせる



禁止

- ・ごとくを外して鍋などを直接コンロに置いて使用しない

不完全燃焼や機器焼損のおそれがあります。



禁止

- ・トッププレートに鍋などをのせない

トッププレートの変色や損傷の原因になります。

また、排気の流れが変わるため、機能が正しくはたらかない場合があります。



必ず守る

- ・陶器製鍋を使用する場合は、長時間の使用は避け、中火以下の火力で使用する
- 異常過熱による機器損傷の原因になります。

コンロ編

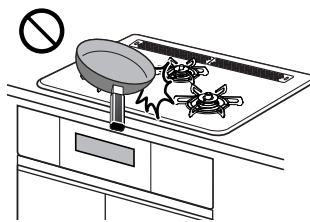
トッププレートについて



- ・衝撃や荷重を加えない
- ・上にのらない

トッププレートが変形、破損して、異常過熱や火災の原因になります。

※破損したときは、けがの原因になりますので、程度の大小に関係なく、すぐに修理を依頼してください。

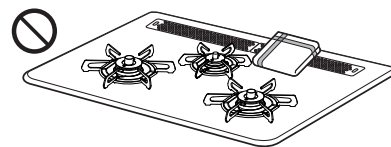


グリル編

グリルについて



- ・グリル排気口の上に、ふきんやタオル、アルミはくなどをのせたり、ふさがない
 - ・グリル排気口の周りには、ものを置かない
- 火災や不完全燃焼の原因になります。

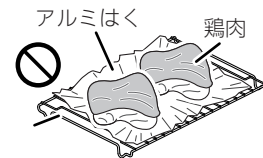


- ・グリル使用前はグリル庫内を点検する

グリル庫内に食品くずやふきんなどがあると、使用中に燃えることがあります。
また、グリルとびらに調理物をはさみこんだまま使用しないでください。



- ・脂が出る料理には、グリル焼網の上や下にアルミはくを敷かない
- アルミはくの上に脂がたまり、発火する原因になります。
※鶏肉や脂がのったさんまなどは、脂が多く出ます。

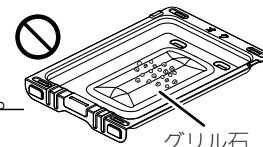


また、グリルバーナーの炎口がつまり、燃焼不良、途中消火の原因になります。



- ・グリル受け皿にグリル石やグリルシートなどを入れない

たまった脂が過熱されたり、グリルシートに着火し、火災の原因になります。



- ・グリルとびらガラスに衝撃を加えたり(グリルとびらの落下も含む)、キズをつけたりしない



- ・使用中や使用直後に水をかけない

グリルとびらガラスが割れて、やけどやけがの原因になります。



- ・グリル使用中や使用直後は、グリルとびら取っ手以外は触らない
- ・グリル受け皿を持つときは、ぬれふきんなどで持たない

やけどの原因になります。



- ・グリル受け皿に水などを入れて使用しない

この機器はグリル受け皿に水を入れる必要がないタイプです。水などを入れないでください。
グリル機能が正しくはたらかず、燃焼不良の原因になります。
また、水などが高温になり、こぼすとやけどの原因になります。



- ・グリルを使用するときは、グリル排気口に手や顔などを近付けない

高温の排気が出て、やけどの原因になります。



- ・鍋の取っ手などがグリル排気口にかからないようにする

高温の排気が出て、やけどや鍋の取っ手などの焼損の原因になります。



- ・グリルとびらを開けたままグリルを使用しない

ワークトップ(キッチンの天板)を焦がしたり、機器上部が異常に過熱され、やけどをする原因になります。

必ずお守りください (安全上の注意)

グリル編

グリル使用中は

- 
必ず守る

禁止

注意

必ず守る

必ず守る

- ・エアコン、扇風機などの風がグリル排気口にあたらないように配慮して使用する
風があたると温度センサーが温度を正しく検知できず、調理物が焼け足りなかったり、焼きムラができます。
 - ・調理物を焼きすぎない
調理物に火がつき、グリル排気口から炎が出ることがあり、火災の原因になります。
グリル庫内で調理物が燃えたり、たまった脂に引火した場合は、
①点火／消火ボタンを押し、グリルを消火する。
②調理物の炎が消え、グリル庫内が冷めるまでグリルとびらを開けない。
③消火後、お買い上げの販売店または、もよりのガス事業者(供給業者)に点検を依頼する。
 - ・異なる調理物(焼き上がりの早い調理物、遅い調理物)を、同時に焼くときは注意する
調理物が焦げたり、発火するおそれがあります。
 - ・鶏肉やさんまなどの脂の多い食材を焼くときは注意する
飛び散った脂に引火して、瞬間的にグリル排気口から炎が出る場合があります。
やけどや火災などの原因になります。

グリル使用後は

- 
警告

必ず守る

禁止

注意

必ず守る

必ず守る

- ・グリル使用後および連続使用するときは、グリル焼網、グリル受け皿にたまった脂、食品くずは、使用の都度取り除く
たまった脂、食品くずに火がついて火災のおそれがあります。
 - ・使用直後に調理物を出し入れする場合は、グリルとびらやグリル焼網、グリル受け皿を機器から取り外さない
グリルとびらガラスやグリル焼網などが高温になっており、やけどの原因になります。
 - ・グリル受け皿を持ち運びするときは、冷めてから持ち運ぶ
使用中や使用直後は、グリル受け皿は高温になっています。また、たまった脂などが高温になっており、やけどの原因になります。
 - ・グリル過熱防止センサーがはたらいたときは、グリルとびらガラスやグリル受け皿などの温度が相当高くなっているため注意する
やけどやけがの原因になります。

お手入れ編

お手入れの際は

- 
必ず守る

禁止

注意

必ず守る

禁止

必ず守る

- ・機器が十分冷めてから、手袋をして行う
やけどや機器の突起物などでけがをする原因になります。
 - ・機器や機器周辺(キッチンの天板など)に水をかけたり、水を流しての掃除はしない
機器内部に水が浸入し、点火不良、不完全燃焼、故障の原因になります。
 - ・ぬれぶきんやスポンジたわしを使用する場合はよくしぼり、水分を切ってから使用する
機器内部に水が浸入し、点火不良、不完全燃焼、故障の原因になります。
 - ・トッププレートは取り外さない
裏面でけがをする原因になります。
 - ・バーナーキャップを水洗いしたあとは、よく水気を切る
水分が残ったまま取り付けると、点火不良や不完全燃焼の原因になります。

お願い

機器の使用について

- ・使用中も、ときどき正常に燃焼していることを確認してください。
- ・ガス栓を閉めて火を消さないでください。
やけどや思わぬ事故の原因になります。
- ・トップレートの上で、IHジャー炊飯器、卓上型IHクッキングヒーターなど電磁誘導加熱の調理機器を使わないでください。
磁力線により、機器が故障する原因になります。
- ・トップレートのごとくを取り付けている場所に、跡が付くことがあります。
- ・弱火で使用している場合は、機器下のキャビネットとびらや、グリルとびらをゆっくり開閉してください。
開閉により発生した風で、火が消える場合があります。
- ・トップレートには、安全に関するラベルが貼り付けてあります。
もし、はがれたり、読めなくなった場合は、お買い上げの販売店または、コンタクトセンター（0120-38-8180）に連絡してください。
貼り替える場合はトップレートの汚れをふき取り、同じ場所に貼り付けてください。

コンロの使用について

- ・弱火のときは炎が見えにくい場合がありますので、消し忘れに注意してください。
- ・調理中に鍋をのせかえるときは、一旦火を消してください。
- ・強火で長時間使用すると土鍋やホーロー鍋など、鍋の種類によっては、ごとくがくっつくことがあります。
長時間使用したあとに、鍋を動かすときは、鍋とごとくがくっついていないことを確認してください。
ごとくがくっついた場合は、すぐに元の位置に戻し、機器が冷めてからくっついたごとくを鍋から外してください。
くっついたまま動かすと、ごとくが落下し、やけど、けが、機器損傷の原因になります。
- ・煮こぼれしたときは、その都度お手入れを行ってください。
バーナーに煮こぼれがかかったまま放置すると、炎口がつまり機器内部で燃えることにより、
点火不良や機器焼損の原因になります。機器の内部に煮汁が浸入すると、故障の原因になります。

突沸現象について

- ・みそ汁やカレー、ミートソースなど、とろみのある料理を煮たり温めたりするときは、火力を弱めにして、よくかき混ぜてください。
強火で急に温めると、鍋底に沈んだみそやルーなどが突沸現象により突然噴き上がり、鍋がはねあがってやけどをする原因になります。（とくにだし入り豆みそ（赤みそなど）に注意してください。）

突沸現象とは、突然にふっとうする現象です。

水、牛乳、豆乳、酒、みそ汁、コーヒーなどの液体を温めるときに、ささいなきっかけ（容器をゆする、塩、砂糖などを入れる）で生じます。

この現象が調理中に起きると、鍋がはねあがったり、高温の液体が飛び散るため、やけどやけがをするおそれがあります。これらの予防法として次の点にご注意ください。

- ・カレー、ミートソースなどのとろみのある料理やみそ汁などの汁ものの温めは弱火でかき混ぜながら加熱する。（強火で急に加熱しない。）
- ・熱い汁ものに、塩、砂糖などの調味料を入れる場合は、少し冷ましてから行う。
- ・鍋の大きさにあった火力で加熱する。

必ずお守りください (安全上の注意)

設置編

警告



必ず守る



分解禁止

- ・機器の設置、移動、取り外しの際は、お買い上げの販売店または、もよりのガス事業者（供給業者）に依頼する

ガス配管接続には専門の資格、技術が必要です。

- ・絶対に改造、分解は行わない

改造、分解は、不完全燃焼による一酸化炭素中毒となるおそれがあります。
また、火災の原因になります。

注意

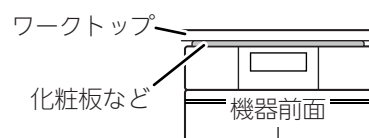


禁止

- ・ワークトップ(キッチンの天板)の前面部と機器本体

上面との間を化粧板などで閉塞しない

不完全燃焼の原因になります。



警告



必ず守る

- ・銘板に表示しているガス(ガスグループ)で使用する

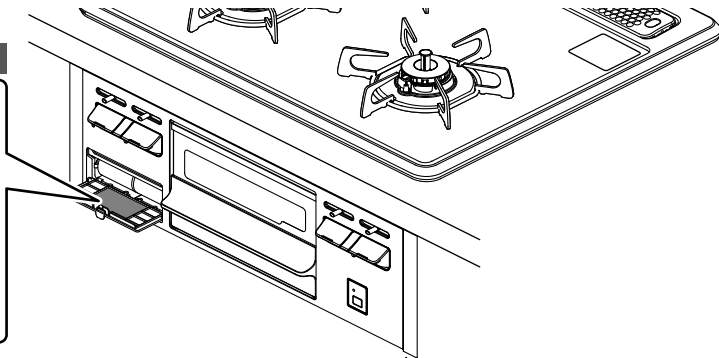
- ・転居時は、供給ガスの種類が銘板の表示と一致していることを確認する

表示以外のガスで使用すると、不完全燃焼による一酸化炭素中毒、異常点火や機器が故障する原因になります。

供給ガスがわからない場合は、お買い上げの販売店または、もよりのガス事業者(供給業者)にお問い合わせください。

銘板 ※図は都市ガス用13Aの場合

■部分を確認してください。	
品番	000000
(型式名)	都市ガス用
	13A_000kW 12A_000kW
製造年月・製造No	22.08-000000
(右は2022年 8月生産の例)	
株式会社ハーマン	



警告



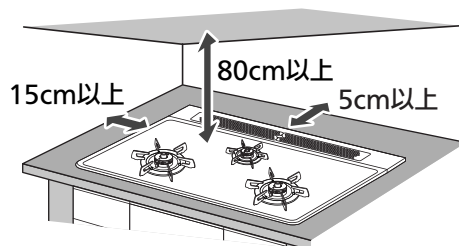
必ず守る

- ・可燃性の部分(棚、壁、家具など)から十分離して設置する

火災予防条例で定められていますので、必ず守ってください。距離が近いと火災の原因になります。
可燃性の壁との離隔距離を下図のように取れない場合は、必ず別売部品の防熱板を取り付けてください。

※表面がステンレスやタイルでも壁の内側がベニヤ板などの場合があります。確認できない場合は、防熱板が必要です。詳しくは、取付設置説明書を参照してください。

※防熱板のお求めはお買い上げの販売店または、コンタクトセンター(0120-38-8180)にお問い合わせください。



必ず守る

- ・機器周囲の改装をする場合(吊り戸棚を付けるなど)も、可燃物との離隔距離を確実に保つ

火災の原因になります。

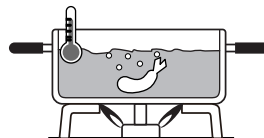
安心・安全機能／お知らせ機能

安心・安全機能

過熱を未然に防止

調理油過熱防止装置 ☐ 左右コンロ ☐ 後コンロ

油の温度を約250℃に保つよう、自動で強火と弱火を繰り返し、過熱による発火を防ぎます。自動火力調節している状態が約30分続くと自動で火を消します。また、弱火の状態でも温度が上昇し、約250℃以上になった場合も自動で火を消します。
ただし、後コンロは自動火力調節せず、約250℃になると自動で火を消します。
・鍋の種類や油の量によって自動消火時の油の温度は異なります。



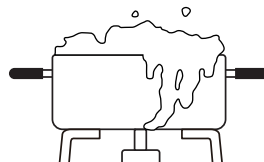
火力調節
します

火を
消します

炎が消えるとガスを自動でストップ

立消え安全装置 ☐ 左右コンロ ☐ 後コンロ ☐ グリル

煮こぼれや風などで火が消えると、自動でガスを止めます。



ガスを
止めます

万一消し忘れても一定時間で自動消火

コンロ消し忘れ消火機能 ☐ 左右コンロ ☐ 後コンロ

コンロは点火後、約120分(高温で自動火力調節している状態の場合は約30分)で自動で火を消します。

グリル消し忘れ消火機能 ☐ グリル

点火して一定時間が経過すると、消し忘れ消火機能がはたらき、自動で火を消します。

火を
消します

火を
消します

煮ものなどで焦げついた場合、鍋を傷める前に自動消火

焦げつき自動消火機能 ☐ 左右コンロ ☐ 後コンロ

煮もの調理などで鍋底が焦げつきはじめたら、自動で火を消します。
・鍋の材質、調理物の種類、火力によって焦げの程度は異なります。
・弱火から強火に切り替えたときに焦げつき自動消火機能がはたらいで自動消火することがあります。再度点火して使用してください。
・高温炒めモード使用時は、この機能ははたらきません。



火を
消します

誤って操作されるのを防止

ロック機能 ☐ 左右コンロ ☐ 後コンロ ☐ グリル

小さなお子さまのいたずらや誤操作を防止するために、点火／消火ボタンをロックすることができます。
(18ページ)

安心・安全機能／お知らせ機能

安心・安全機能

点火時の炎あふれを防止

中火点火機能 (左右コンロ)

コンロ点火時の炎あふれを抑えるために、点火時に火力調節つまみが強火側(右側)にある場合、つまみは中火位置(中央)に動き、中火で点火します。(左右コンロのみ)

また、火力調節つまみが弱火側(左側)にある場合は、つまみは強火側(右側)に動きます。(全コンロ)

グリル庫内が過熱すると自動消火

グリル過熱防止センサー (グリル)

魚などの調理物を入れずに空焼きした場合や、グリル庫内の温度が異常に高くなった場合に自動で火を消します。

火を
消します

お知らせ機能

火が消えた際に点火／消火ボタンを戻し忘れると、ブザー音でお知らせ

点火／消火ボタン戻し忘れブザー (左右コンロ) (後コンロ) (グリル)

安心・安全機能のはたらきにより火が消えたときに、点火／消火ボタンを戻し忘れると、1分おきにブザー音『ピピッ』(5回)でお知らせします。

戻し忘れたまま放置すると、乾電池の消耗が早くなります。必ず点火／消火ボタンを押し、「消火の状態」に戻してください。

※他のバーナーを使用中は、ブザー音が鳴りません。

グリル使用中であることをブザー音でお知らせ

グリル使用中お知らせブザー (グリル)

- ・グリル庫内温度が一定温度に達すると、ブザー音『ピピピッ』で使用中であることをお知らせし、さらに温度が上がると約3分おきにブザー音『ピピピッ』でお知らせします。
- ・グリル庫内温度が高いときには、約3分おきにブザー音『ピーピーピー』でお知らせしますので、調理物の焼きすぎなどに注意してください。

乾電池を交換する

乾電池の交換時期が近付くと電池交換サインが点滅し、最初の点火操作時は、ブザー音『ピー』でお知らせします。乾電池の容量がなくなると点火できなくなりますので、新品のアルカリ乾電池(単1形：2個)と交換してください。

⚠ 注意



乾電池は充電、分解、加熱したり、火の中に投入しない

禁止

乾電池が破裂し、手や服などを汚すだけでなく、目などに入ると大変危険です。

お願い

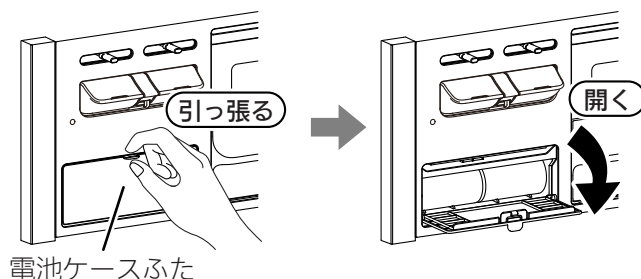
- 乾電池に記載してある注意事項をよく読み、正しく使用してください。
- 乾電池の組み込む方向を間違えないようにしてください。
- 乾電池が正しく組み込まれていなかったり、乾電池の容量がなくなった場合は使用できません。
- 乾電池は必ず2個とも同種類の新品のアルカリ乾電池を使用してください。
アルカリ乾電池(単1形：2個)を使用した場合、乾電池を交換する(電池交換サイン点滅)めやすは約1年です。
(使用状況、乾電池製造メーカーにより使用可能時間が短くなる場合があります。また、新しい乾電池と古い乾電池の組み合わせや、種類の違う乾電池を混ぜて使用した場合や、マンガン乾電池を使用した場合は、使用可能時間が短くなります。)
- 未使用の乾電池でも「使用推奨期限(月、年)」を過ぎている場合は、自然放電により短時間で電池交換サインが点滅する場合があります。また、付属の乾電池はお試し用のため、新品のアルカリ乾電池と比較して寿命が短くなります。交換するときは、アルカリ乾電池(単1形：2個)を入れてください。
- 電池ケースに水や異物が入った場合、ふき取ってきれいにしてください。電池機能不良の原因となります。
- 単2形、単3形乾電池を単1形サイズにする電池スペーサーや充電式単1形乾電池は、使用できない場合があります。また、使用できた場合でも使用可能時間が極端に短くなります。

① 機器が冷めていることを確認する

② 電池ケースふたを開ける

- 電池ケースふたのつまみを引っ張り、矢印の方向に開けてください。

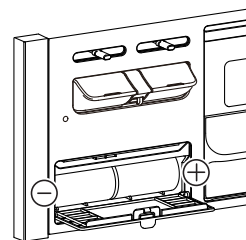
※電池ケースふたは、約90°まで開きます。
それ以上は無理に開かないでください。
また、無理な力を加えないでください。
電池ケースふたが、破損する原因になります。



③ 乾電池を交換する

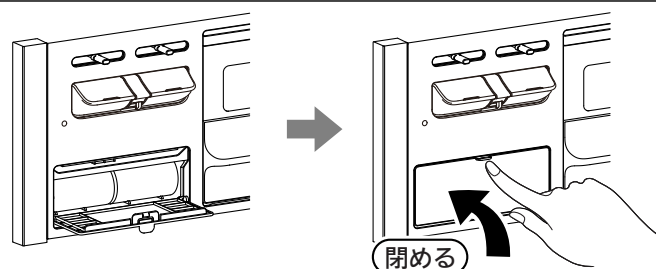
- 新しいアルカリ乾電池(単1形：2個)の⊕⊖を確かめ、古い乾電池と交換してください。

※乾電池の組み込む方向を間違えないようにしてください。
発熱や液漏れの原因になります。



④ 電池ケースふたを閉める

- 電池ケースふたを元通りに閉めてください。



コンロを使う準備

調理に適した鍋

鍋などの種類		煮ものなど	炒めもの 揚げものなど (揚げものの時の 油の量：200mL 以上)
フライパン	アルミ製	×	○
	鉄製	×	○
鍋	アルミ製	○	○
	ホーロー製	○	○
	ステンレス製(厚手) (鍋底厚み2.5mm以上)	○	○
	ステンレス製(薄手) (鍋底厚み2.5mm未満)	○※1	×
	耐熱ガラス製	○※2	×
鍋、中華鍋 (底が平らなもの)	鉄製	○	○
無水鍋、多層鍋	ステンレス製	○※2	○
土鍋	陶磁器製	○※2	×
圧力鍋	アルミ、ステンレス製	○※2	×
やかん	アルミ製	×	×
	ステンレス製	×	×

○：適しています。 ×：適していません。(温度を正しく検知しない場合があります。)

※1：焦げつきがきつくなります。

※2：途中消火したり、焦げつく場合があります。

右コンロは高温炒めモード(21ページ)にすると途中消火せず使用できます。

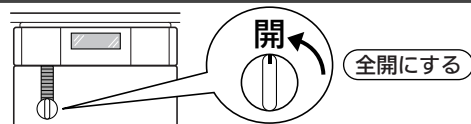
ただし、焦げつき自動消火機能がはたらかないため注意してください。

中華鍋を使うときのお願い

- ・底が平らな鍋を使用してください。
- ・鍋底と温度センサーが密着していることを確かめてから使用してください。
- ・中華鍋の種類によっては、鍋が安定せず、温度センサーが正しくはたらかません。
- ・必ず取っ手を持って調理してください。

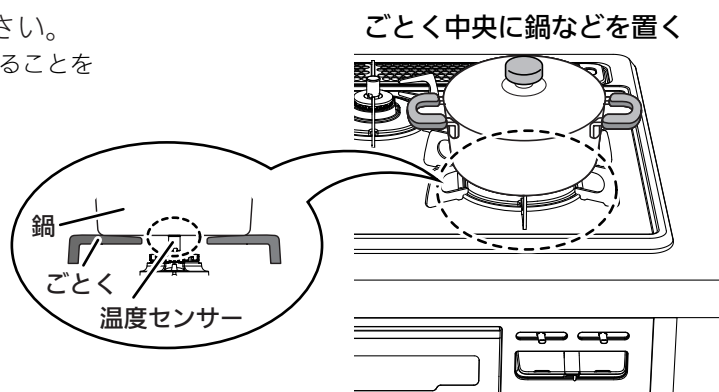
① ガス栓を全開にする

- ガス栓を『開』の状態にしてください。



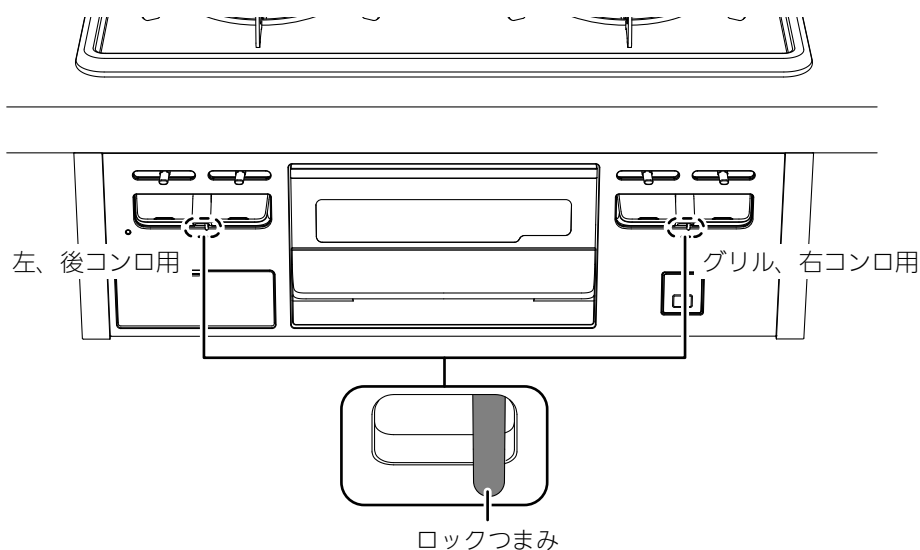
② 鍋などを置く

- ごとくの中央に鍋などを置いてください。
※点火前に温度センサーが鍋底に密着していることを確認してください。



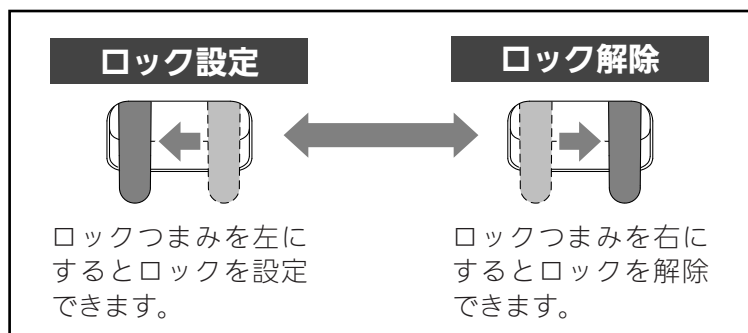
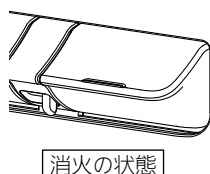
ロック機能について

小さなお子さまのいたずらや誤操作を防止するために、点火／消火ボタンをロックすることができます。



ロックを設定／解除する

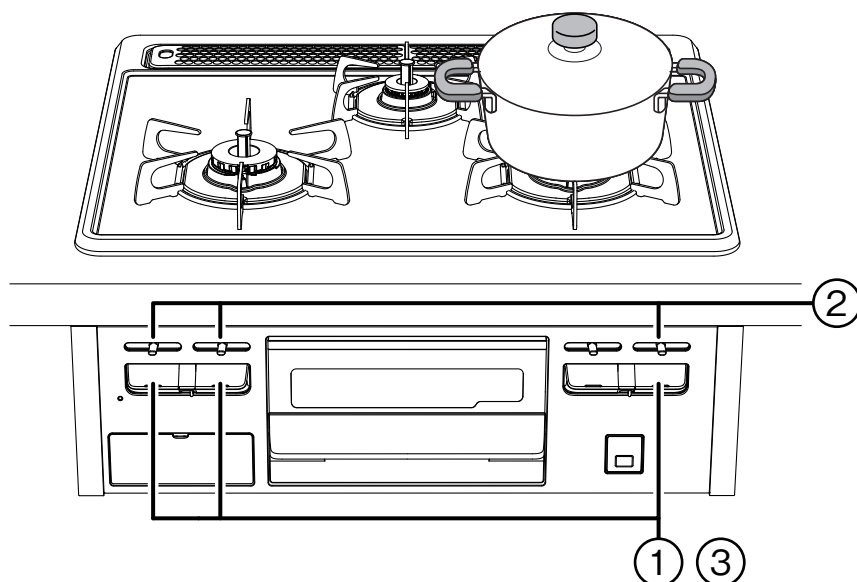
- 点火／消火ボタンが「消火の状態」で、ロックつまみをスライドさせて動かしてください。
※点火／消火ボタンが「点火の状態」では、ロックつまみを動かすことはできません。



コンロの使いかた（基本操作）

準備する 『コンロを使う準備』（17ページ）

ごとく中央に鍋などを置く



ポイント

- ・炒めもの（野菜炒めなど）、焼きもの（目玉焼き、ハンバーグなど）をする場合は、1分程度予熱する。
※予熱時間が長すぎたり短すぎたりすると、安心・安全機能がはたらき、弱火になったり消火する場合があります。（自動火力調節で弱火になっている場合は、火力を強くしても受け付けません。）
- ・直火調理（あぶりもの）、いりもの、炒めもの（鍋をひんぱんに上げる料理）は、高温炒めモードで調理する。
（21ページ）
※高温炒めモードを使わずに、水分が蒸発しても加熱を続ける料理をした場合、焦げつき自動消火機能がはたらき、消火することがあります。

1分程度予熱



ご注意していただきたいこと

- ・鍋などをごとくにのせた状態で、激しく動かさないでください。
トッププレートにキズがつくおそれがあります。

お願い

- ・みそ汁やカレー、ミートソースなど、とろみのある料理を煮たり温めたりするときは、火力を弱めにして、よくかき混ぜてください。
強火で急に温めると、鍋底に沈んだみそやルーなどが突沸現象により突然噴き上がり、鍋がはねあがってやけどをするおそれがあります。（とくに、だし入り豆みそ（赤みそなど）のときは注意してください。）
※突沸現象については、12ページを参照してください。

お知らせ

- ・約120分（高温で自動火力調節している状態の場合は約30分）連続使用すると、消し忘れ消火機能がはたらき自動消火します。
- ・点火後、約30分おきにブザー音『ピピピッ』で使用中であることをお知らせします。
- ・自動消火や安心・安全機能により火が消えた際に点火／消火ボタンを戻し忘れると、1分おきにブザー音『ピピッ』（5回）でお知らせします。（15ページ）

① 点火する

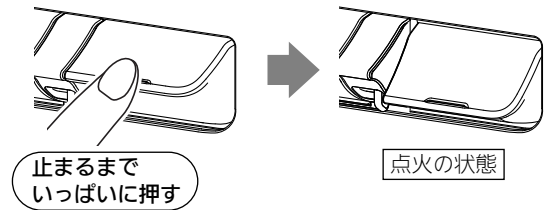
- 点火／消火ボタンを止まるまでいっぱい押し、「点火の状態」にしてください。

※必ず火がついたことを確認してください。

※左右コンロは、中火で点火します。

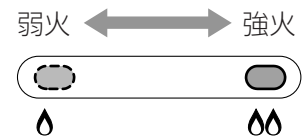
中火点火機能(15ページ)を参照してください。

※押し込みが足りないと、スパーク(パチパチ)しても火がつかない場合や、一瞬火がついて消える場合があります。



② 火力調節する

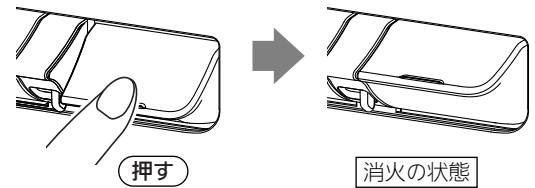
- 火力調節つまみを左右にゆっくりとスライドし、炎があふれない程度に調節してください。



③ 消火する

- 点火／消火ボタンを押し、「消火の状態」にしてください。

※必ず火が消えたことを確認してください。

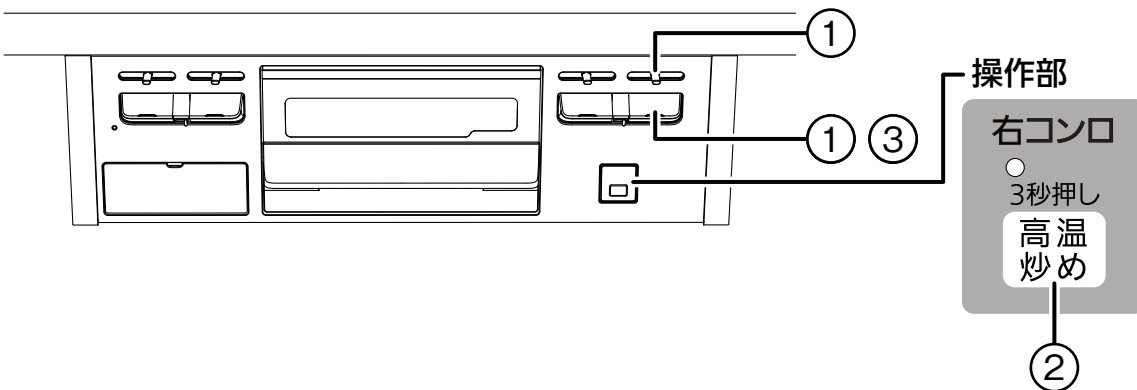
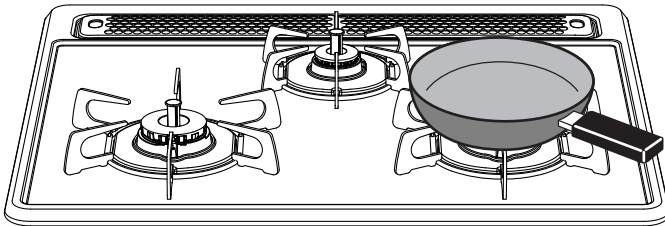


高温炒めモード (右コンロ)

直火調理(あぶりもの)、いりもの、炒めもの(鍋をひんぱんに上げる料理)などで、急に火が小さくなったり、消えてしまう場合に、通常より高い温度で調理できるモードです。ただし、温度が高くなりすぎると安全のため、自動で火力を弱火に調節したり、火を消します。
※高温炒めモードを使用すると、焦げつき自動消火機能は作動しません。

準備する 『コンロを使う準備』(17ページ)

ごとく中央にフライパンなどを置く



警告



高温炒めモードを使用するときは、揚げものなどの調理はしない
調理油過熱防止装置が正しく作動せず、調理油が発火し、火災の原因になります。

注意



直火調理(あぶりもの)をする場合は、温度センサーの真上を避ける
温度センサー上に焼き汁などが滴下しないよう、温度センサーの真上は避けて調理してください。
温度センサーが汚れると、鍋底の温度を正しく検知できず、発火や途中消火、機器焼損の原因になります。
また、焼き汁の滴下量や位置により、温度センサーの故障の原因になります。

お知らせ

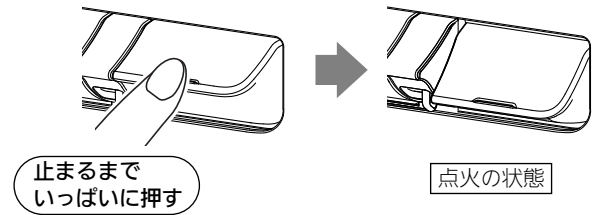
- 高温炒めモードは安全のため、約60分(高温で自動火力調節している状態の場合は約30分)連続使用すると、消し忘れ消火機能がはたらき自動消火します。
使用中に高温炒めモードを解除して、続けて使用する場合は、はじめに点火してから約120分(高温で自動火力調節している状態の場合は約30分)経過すると消し忘れ消火機能がはたらき、自動消火します。
- 自動消火や安心・安全機能により火が消えた際に点火/消火ボタンを戻し忘れると、1分おきにブザー音『ピピッ』(5回)でお知らせします。(15ページ)

① 点火し、火力調節する

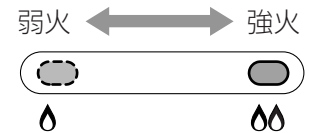
- 点火／消火ボタンを止まるまでいっばいに押し、「点火の状態」にしてください。

※必ず火がついたことを確認してください。

※押し込みが足りないと、スパーク(パチパチ)しても火がつかない場合や、一瞬火がついて消える場合があります。



- 火力調節つまみを左右にゆっくりとスライドし、炎があふれない程度に調節してください。



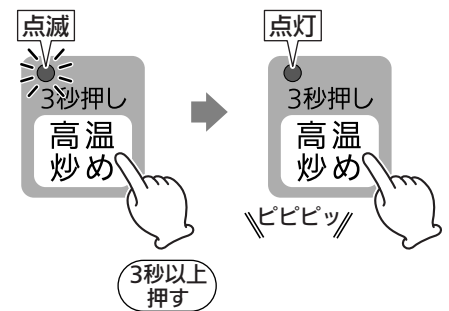
② 高温炒めを設定する

- 高温炒めキーを**3秒以上**押してください。

※押している間は点滅します。

※設定を取り消すときは、高温炒めキーを押してください。

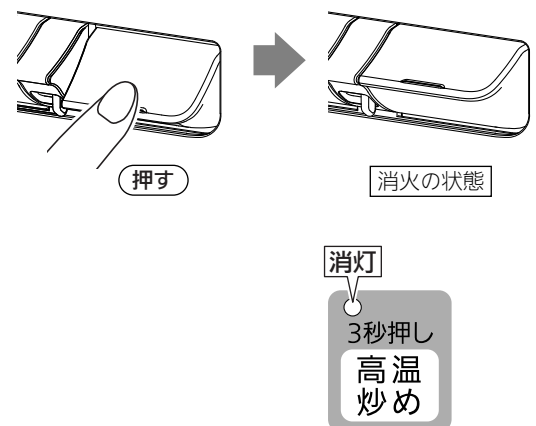
※設定を取り消しても消火しません。



③ 消火する

- 点火／消火ボタンを押し、「消火の状態」にしてください。

※必ず火が消えたことを確認してください。



グリルを使う準備

初めてグリルを使うとき

- ・グリル庫内に梱包部材などが入っていないか確認してください。
- ・グリル庫内の金属部品に残った加工油を焼き切るため、グリル焼網を機器から取り外し、グリルとびらを閉めて、強火で約8分空焼きしてください。グリル排気口以外からも煙やにおいが出る場合がありますが、異常ではありません。
- ・空焼きしているときに、グリル過熱防止センサーが作動し、自動消火場合があります。消火した場合は点火／消火ボタンを押して、「消火の状態」に戻し、しばらく(約3分)待ってから再度点火してください。

⚠注意



グリル焼網は、グリルが冷めてから取り付ける
やけどのおそれがあります。

ポイント

生焼け防止のために

- 冷凍の肉・魚** しっかりと解凍してください。
- 冷蔵の肉・魚** 常温でしばらくおいてください。
- 生魚** 水洗いしたあと、水気をよくふき取ってください。

焦げ防止のために

- みそ(かす)漬け** みそ(かす)をよくふき取ってください。
- 照り焼き** タレをきれいにふき取ってください。



庫内発火防止のために

- 脂の多い食材** 鶏肉などはフォークなどで皮に穴を開け、皮を上にして焼いてください。

食材を焼くときのポイント

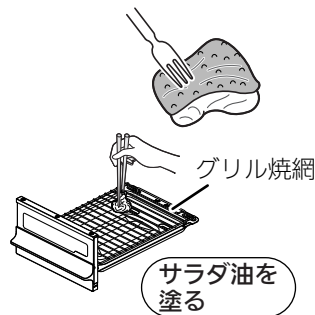
- ・グリル焼網にサラダ油を塗ってください。
- ひと手間かけることで、食材がグリル焼網にくっつきにくくなります。

魚以外の下ごしらえ

- ・なすや、ししとうなどの野菜は表面に切り目を入れてください。



切り目



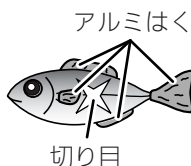
魚の塩焼きの下ごしらえ

- ・身崩れ防止のため、魚の重量の2%程度の塩を、身の厚いところには厚く、薄いところには薄くつけて、身をしめてください。
- ・さばやいわしなど脂肪分の多い背の青い魚は、多めに塩をして、おき時間は長めにしてください。
- ・白身魚は、少なめに塩をして、おき時間は短めにしてください。
- ・川魚、いか、えび、貝などは、焼く直前に塩をふってください。

魚を焼くときは

姿焼き

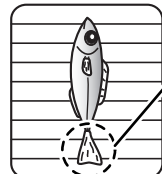
切り目を入れると、火の通りがよくなり、皮が破れることによる脂の飛び散りも少なくすることができます。
尾が手前になるように置くと尾の焦げは少なくなり、多めに塩をつけたり、アルミはくで包むと尾やヒレの焦げが少なくなります。



切り目

中央に置く

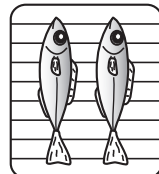
1尾の場合



手前側

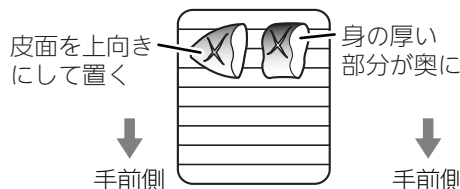
均等に置く

2尾以上の場合

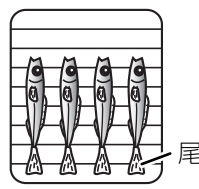


手前側

奥に詰めて置く



尾を手前側に



切身

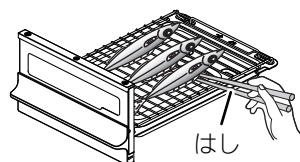
皮面を上向きにし、身の厚い部分が奥になるように置いてください。

ししゃもなどの小さな魚

尾が焦げやすいので、グリル焼網の手前側に置いてください。

魚を取るときは

- ・はしをグリル焼網と平行に入れると、グリル焼網に付着した魚がはがしやすくなります。
- ・別売部品の『魚すくって』を使用すると便利です。(45ページ)



警告



必ず守る

調理中は、機器から離れないようにし、焼きすぎに注意する

- ・調理物の種類によっては、グリル過熱防止センサーがはたらく前に発火するおそれがあります。
- ・調理物に火がつき火災の原因になります。

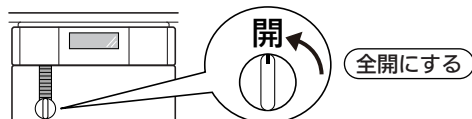
グリル庫内で調理物が燃えたり、たまった調理物や脂に引火した場合は、すぐに点火／消火ボタンを押し、消火してください。次の調理物は、とくに焼きすぎに注意してください。

- 例) ・「みりん干し」や「みりんづけ」など焦げやすい魚
 ・「めざし」などの小魚や「うるめいわし」の丸干しなど、水分の少ないもの
 ・ハラスなど、とくに脂の多いもの
- ・干物や燻製
 ・脂分の多いにしん、塩さば
 ・鶏肉
 ・その他焦げやすいものや油分の多いものなど

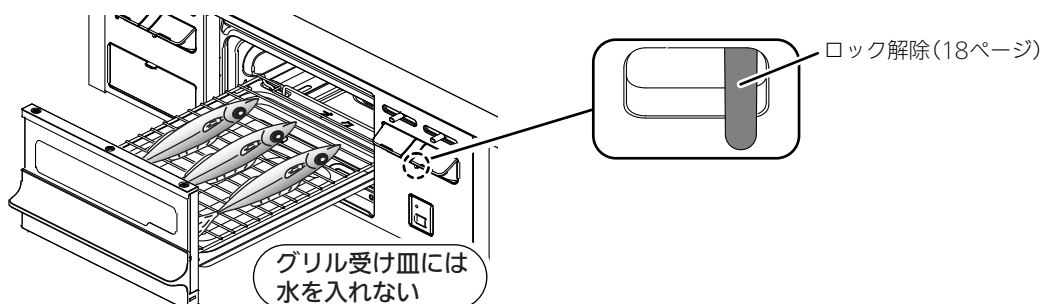
発火しやすいので、調理中はグリル庫内の状態に十分注意してください。

① ガス栓を全開にする

- ガス栓を『開』の状態にしてください。

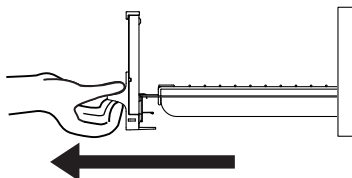


② 調理物を入れて、グリルとびらを閉める

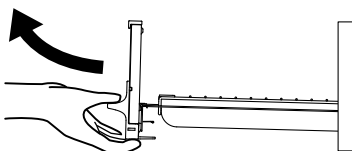


グリルの取り出し方

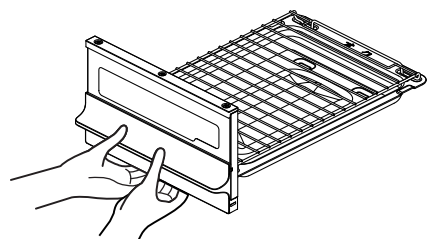
- 1 グリルとびらをゆっくりと止まるところまでいっぱい引き出す。



- 2 グリルを持ち上げて取り出す。



- 3 グリルとびらを両手でしっかりと持ち、ゆっくりと持ち運ぶ。



お知らせ

- ・グリル焼網、グリル受け皿、グリルとびらの取り外しかたは、31ページを参照してください。

ご注意いただきたいこと

- ・グリル焼網を裏返して使用しないでください。調理物が焦げる原因になります。グリル焼網の取り付けかたは、32ページを参照してください。

お知らせ

- ・グリル焼網、グリル受け皿は消耗部品です。使用状態や経年変化などにより、調理物や汚れがとれにくくなったり、塗装がはがれる場合があります。交換部品(有料)として準備しております。(45ページ) お買い上げの販売店または、コンタクトセンター(0120-38-8180)にお問い合わせください。

注意



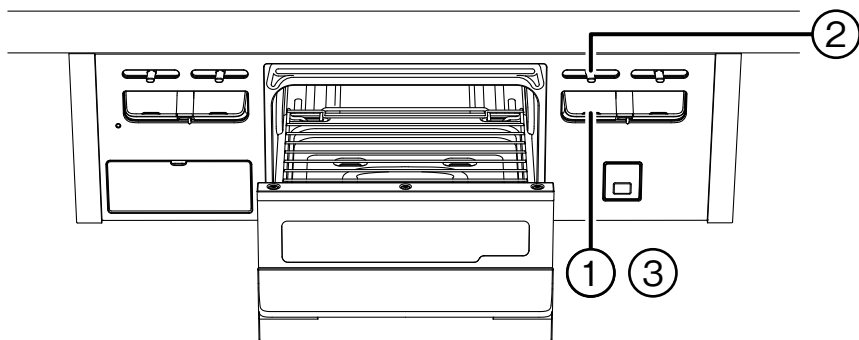
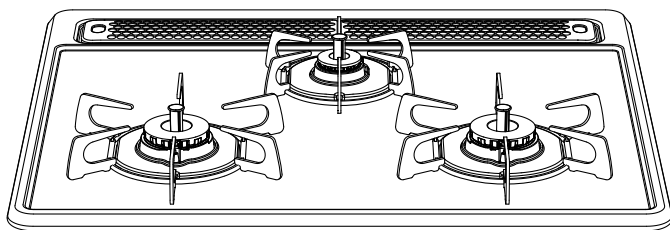
禁止

調理物を取るときなどは、必ず消火し、グリル部周辺に触れない

とくにグリルとびらなどが熱くなっており、やけどの原因になります。

グリルの使いかた

準備する 『グリルを使う準備』(23ページ)



警告

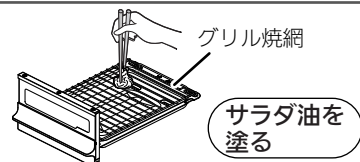


必ず守る

鶏肉などの脂の多い食材を調理するときは、火力を『弱火』にして焼くようにする
グリル受け皿にたまった脂に引火し、火災のおそれがあります。

ポイント

- ・ 形くずれを防止するために、3分程度予熱後、一旦消火してから、グリル焼網にサラダ油を塗ってください。
その後、調理物をグリル焼網にのせて再度点火し、火力を調節してください。
焦げやすいもの(つけ焼き、照り焼き、みそ漬けなど)や身の厚い魚などは、予熱しないでそのまま焼いてください。



ご注意いただきたいこと

- ・ 連続の使用などでグリル庫内が高温になると、安全のため消火します。
グリル過熱防止センサーがはたらいて消火した場合は、点火／消火ボタンを押し、「消火の状態」に戻し、しばらく(約3分)待ってから再度点火してください。
- ・ 脂の多い魚を焼いているときは、煙が多く出る場合があります。

お知らせ

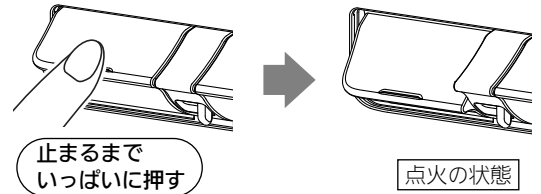
- ・ 自動消火や安心・安全機能により火が消えた際に点火／消火ボタンを戻し忘れると、1分おきにブザー音『ピピッ』(5回)でお知らせします。(15ページ)
- ・ グリル庫内温度が一定温度に達すると、ブザー音『ピピピッ』で使用中であることをお知らせし、さらに温度が上がると約3分おきにブザー音『ピピピッ』でお知らせします。
- ・ グリル庫内温度が高いときには、約3分おきにブザー音『ピーピーピー』でお知らせしますので、調理物の焼きすぎなどに注意してください。

① 点火する

- 点火／消火ボタンを止まるまでいっぱい押し、「点火の状態」にしてください。

※押し込みが足りないと、スパーク(パチパチ)しても火がつかない場合や、一瞬火がついて消える場合があります。

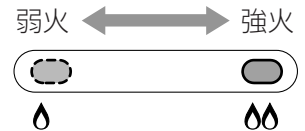
※火力調節つまみが弱火側(左側)にある場合、つまみは強火側(右側)に動きます。



② 火力調節する

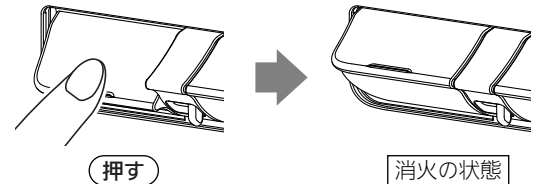
- 火力調節つまみを左右にゆっくりとスライドさせてください。

- 様子を見て、調理物を裏返してください。



③ 消火する

- 点火／消火ボタンを押し、「消火の状態」にしてください。



日常点検とお手入れ

- ・ 日常の点検とお手入れは必ず行ってください。
- ・ 煮こぼれや誤って鍋をひっくり返すなど、機器内に多量の煮汁などが入った場合は、機器の故障や寿命が短くなるおそれがありますので、コンタクトセンター(0120-38-8180)にお問い合わせください。

日常点検について

機器のまわりに
可燃物などはありませんか？

機器のまわりに可燃物がないようにしてください。(6ページ)

各部品は正しく取り付け
されていますか？

バーナーキャップ、ごとくなど正しく取り付けられた状態でお使いください。(30ページ)

汚れていませんか？

煮こぼれやグリル使用後などで機器が汚れているときはお手入れしてください。
温度センサーを押し、スムーズに上下に動くか確認してください。
汚れていると動きが悪くなり、温度センサーが正しくはたらかない場合があります。(33ページ)
スムーズに動かない場合は、必ず点検・修理を依頼してください。

警告



必ず守る

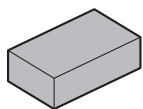
- ・ お手入れは、ガス栓を閉め、機器が冷めてから手袋をはめて行う
とくにグリル排気口の内側(奥側)、グリル庫内をお手入れするときは、十分注意する
やけどや機器の突起物などでけがをする原因になります。
- ・ 点火／消火ボタンをロックする(18ページ)
誤って点火／消火ボタンを押すと、やけどの原因になります。
- ・ お手入れ後は、機器およびグリル庫内にふきん、紙類などを置き忘れていないか必ず確認する
火災の原因になります。

お願い

- ・ 道具や洗剤を目立たない部分で試してから、使用してください。
- ・ 食器洗い乾燥機で洗う場合、専用洗剤・食器洗い乾燥機の取扱説明書をよく読んで、使用してください。
また、煮洗いや食器洗い乾燥機で洗う場合などは、変色したり、ツヤがなくなる場合があります。
- ・ 汚れたままにすると汚れがこびり付き、取れにくくなりますので、使用の都度、お手入れしてください。
煮こぼれをしたまま放置するとお手入れする部品が固着し、外れにくくなったり、故障の原因になります。
※とくに砂糖などを含んだ濃い汁は、すぐにふき取ってください。焼きついて掃除が困難になります。
- ・ バーナーキャップ、ごとく、グリル排気口カバー、グリル部品(グリルとびら、グリル焼網、グリル受け皿)は取り外して洗うことができます。それ以外の部品は、絶対に取り外さないでください。

お手入れ道具、洗剤について

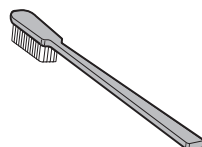
適しているもの



やわらかいスポンジたわし



やわらかい布

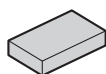


やわらかい歯ブラシ



台所用中性洗剤

⊘ 適していないもの



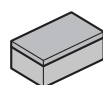
ナイロンたわし



亀の子たわし



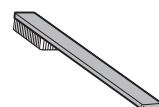
金属たわし



スポンジたわしの
硬い面



メラミン
スポンジ



硬いブラシ



みがき粉



クレンザー



歯みがき粉



クリーム
クレンザー



漂白剤、
酸性洗剤、
アルカリ性洗剤



弱酸性洗剤、
弱アルカリ性洗剤



シンナー、
ベンジン、
アルコール



重曹

・表面のキズや、表面が変質し、はがれ、変色、さび、割れの原因になります。

直接かけて使用しない



スプレー式洗剤

- ・直接かけて使用すると機器内部に洗剤が入り、故障の原因になります。必ずやわらかい布やスポンジたわしなどに含ませてから使用してください。

絶対に使用しない



可燃性スプレー、浸透液、潤滑剤

- ・引火して火災の原因になります。

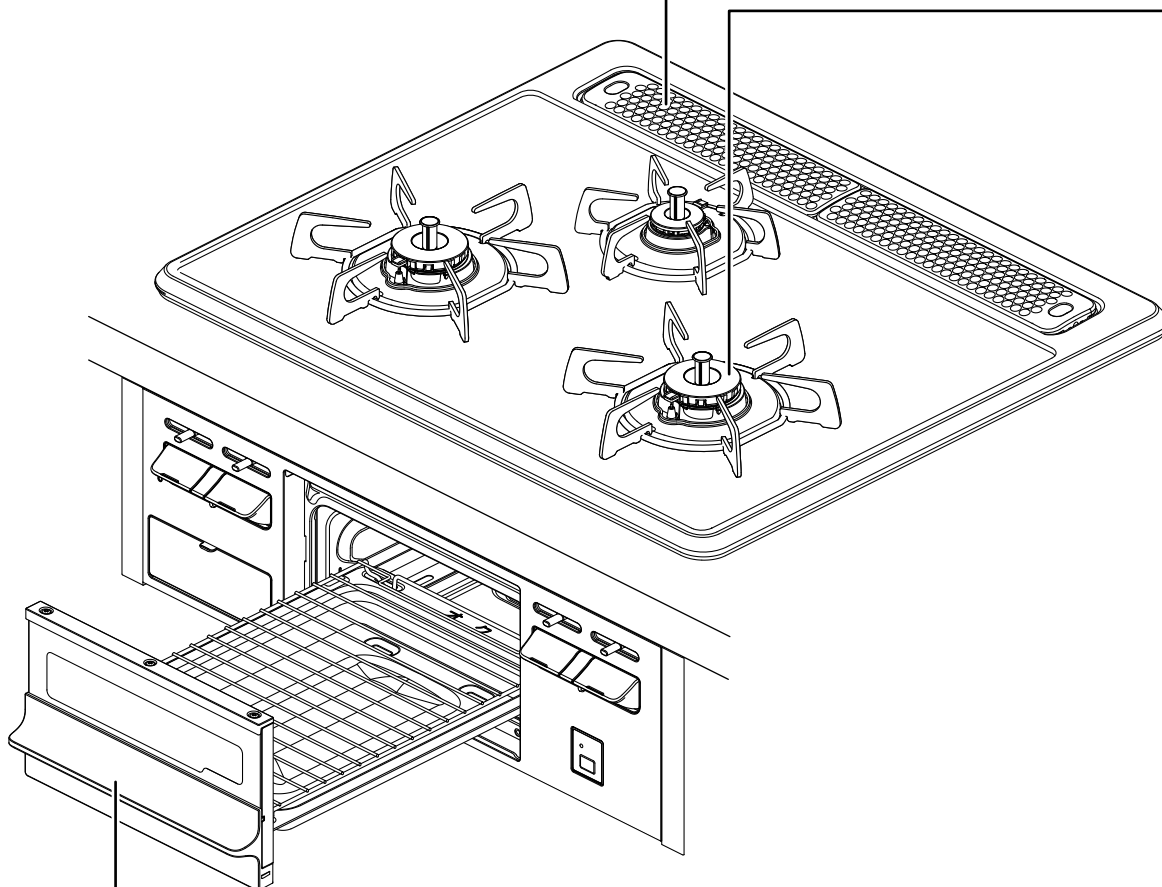
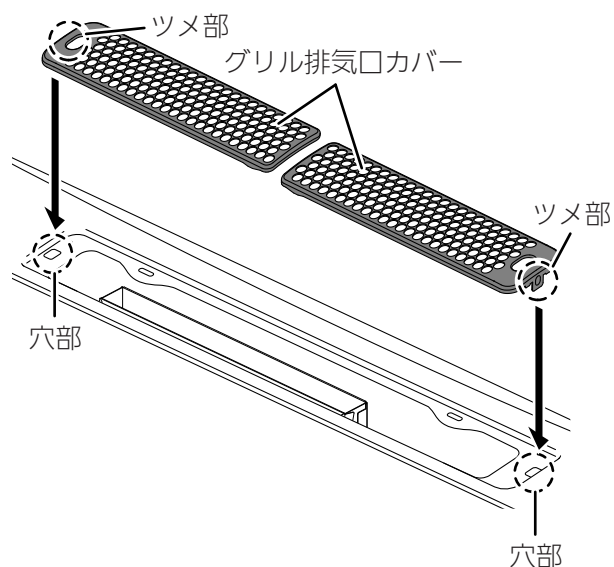
お手入れ（部品の取り外しと取り付け）（コンロ部）

グリル排気口カバー

グリル排気口カバー

- ・グリル排気口カバーのツメ部をグリル排気口の穴部に合わせて取り付けてください。

※グリル排気口カバーを正しく取り付けないと、グリル使用時に焼け足りなかったり、焼きムラの原因となります。



——グリル部の取り付けと取り外しは、31～32ページ参照。

◎お手入れの前には、

・機器が冷めていることを確認する ・ガス栓を閉める ・点火／消火ボタンをロックする(18ページ) ・手袋をする

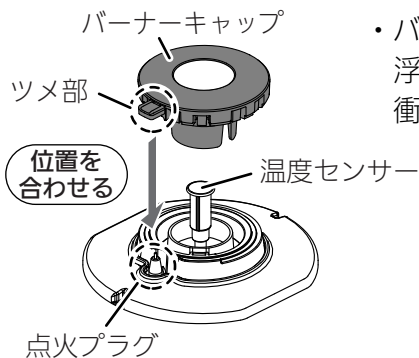
◎汚れたら、その都度きれいにお手入れする

◎お手入れをしたあとは、洗剤や水分が残らないようにする

◎部品を取り付けたあとは、浮き(傾き)がないことを確認する

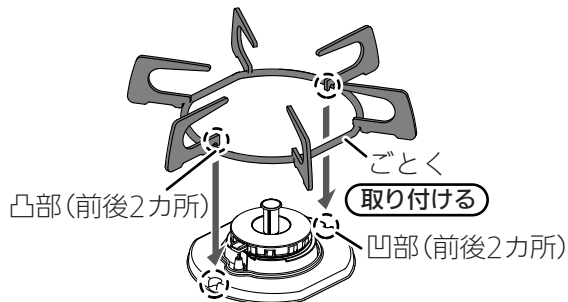
バーナーキャップ、ごとく

バーナーキャップ



・バーナーキャップのツメ部が、点火プラグの真上にくるように合わせ、浮きがないように取り付けてください。(点火プラグ、温度センサーに衝撃をあたえないようにしてください。)

ごとく



・ごとく内側の凸部(前後2カ所)をトッププレートの凹部(前後2カ所)に入れて、浮きがないように取り付けてください。

⚠注意



必ず守る

バーナーキャップは正しく取り付ける

誤った取り付けかた(浮き、裏返しなど)で使用すると、

- ・点火しない場合があります。
- ・炎のふぞろいや逆火で不完全燃焼、一酸化炭素中毒のおそれや変形の原因になります。
- ・機器の中に炎がもぐりこんで、焼損する原因になります。
- ・機器寿命が短くなるおそれがあります。



バーナーキャップの浮き



バーナーキャップの裏返し



必ず守る

ごとくは正しく取り付ける

誤った取り付けかた(浮き、裏返し、ズレなど)で使用すると、鍋などが不安定になり、傾いたり、倒れたりし、やけど、点火不良、不完全燃焼、変形の原因になります。

また、取り付けの際に衝撃を加えると、トッププレートにキズがつく原因になります。



ごとくの浮き



ごとくの裏返し

お知らせ

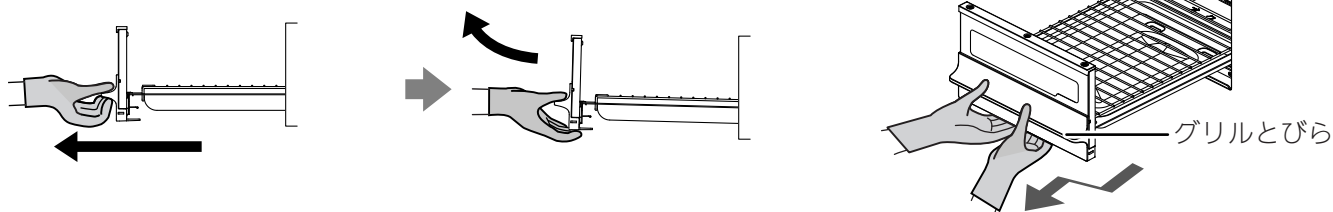
- ・ごとく、バーナーキャップ、グリル排気口カバー、グリル焼網、グリル受け皿は消耗部品です。交換部品(有料)として準備しております。(45ページ)
- お買い上げの販売店または、コンタクトセンター(0120-38-8180)にお問い合わせください。

お手入れ（部品の取り外しと取り付け）（グリル部）

グリル部の取り外しかた

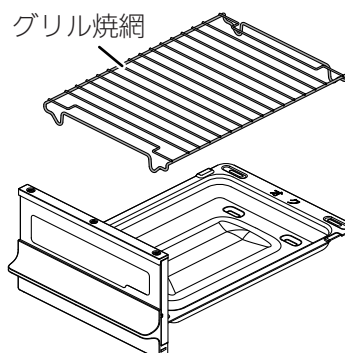
グリル部

- ・水平にゆっくりと手前に止まるまで引き出し、グリルとびらを少し持ち上げて、引き出すと取り出せます。（グリルとびらを持ち上げて引き出すと、止まることなくグリルとびらが外れるため、落下する場合があります。）
- ※グリル受け皿にたまった調理物の脂などをこぼさないよう注意してください。
- ※グリルとびらは両手でしっかりと持ち、ゆっくりと運んでください。



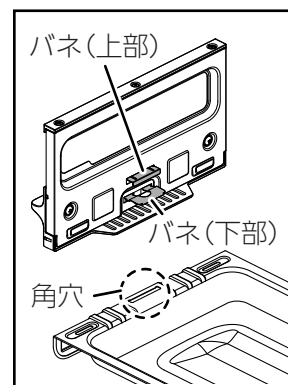
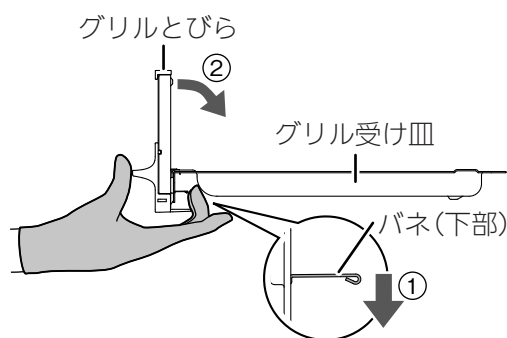
グリル焼網

- ・上に持ち上げて、取り外してください。



グリルとびら、グリル受け皿

- ・バネ(下部)を①の方向に下げると、グリルとびらが②の方向に傾き、外れます。
- ※無理な取り外しにより、強い力を加えると、角穴、バネ(上部)、バネ(下部)の変形や損傷の原因となって、グリルとびらの閉まりが悪くなったり、外れやすくなりますので、注意してください。
- ※グリル受け皿を取り外すときは、グリル受け皿にたまった調理物の脂などをこぼさないよう注意してください。



◎お手入れの前には、

・機器が冷めていることを確認する ・ガス栓を閉める ・点火／消火ボタンをロックする(18ページ) ・手袋をする

◎汚れたら、その都度きれいにお手入れする

◎お手入れをしたあとは、洗剤や水分が残らないようにする

◎部品を取り付けたあとは、グリルとびらがスムーズに開閉できることを確認する

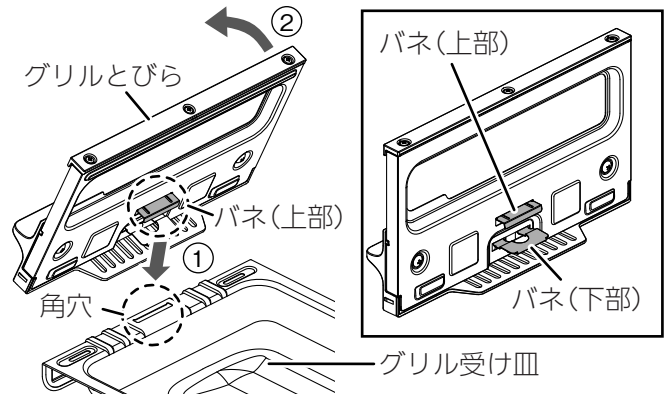
グリル部の取り付けかた

グリル受け皿、グリルとびら

①グリル受け皿の角穴にグリルとびらのバネ(上部)を差し込む。

②グリルとびらを②の方向に回転させる。バネ(下部)で『カチッ』と音が鳴り、取り付けられます。

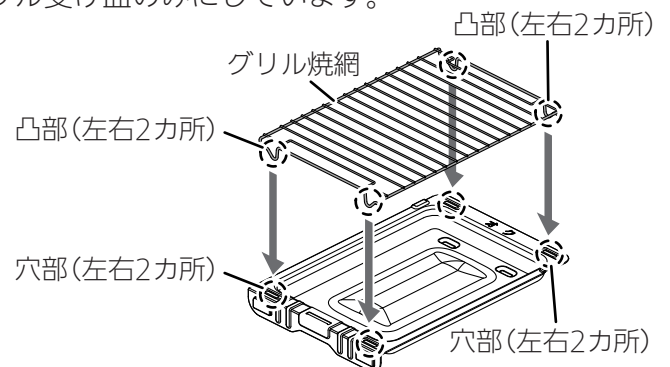
※無理な取り付けにより、強い力を加えると、角穴、バネ(上部)、バネ(下部)の変形や損傷の原因となって、グリルとびらの閉まりが悪くなったり、外れやすくなりますので、注意してください。



グリル焼網

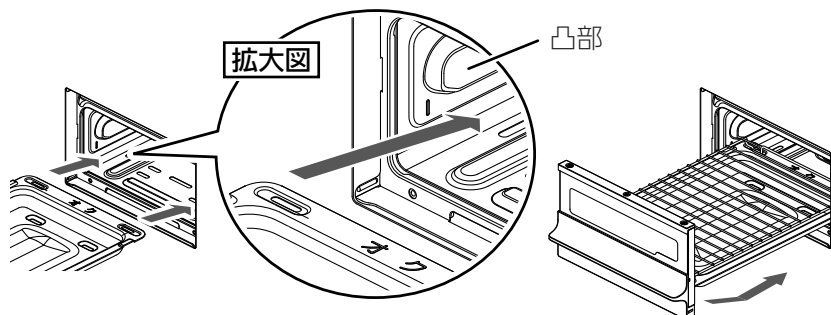
・グリル焼網の凸部(前後、左右4カ所)をグリル受け皿の穴部(前後、左右4カ所)に入れて、取り付ける。

※イラストはわかりやすくするため、グリル焼網、グリル受け皿のみにしています。



グリル部

・グリルとびらを両手で持ち、グリル受け皿をグリル庫内側面の左右にある凸部の下をくぐるようにグリル庫内に入れたあと、水平にスライドさせ、グリルとびらが完全に閉まるまできっちり入れてください。



グリルとびらが閉まりにくい場合やこすれる音がした場合は、グリルとびら、グリル受け皿、グリル焼網が正しく取り付けされていません。そのまま押し込むと、変形や損傷の原因になりますので、再度正しく取り付け直してください。

お手入れ

トッププレート

※トッププレートは取り外せません。

※ごとくやグリル排気口カバーを取り外したときは、お手入れ後に必ず取り付けてください。(29～30ページ)

- ・水を含ませたスポンジ、布などのやわらかい物でふき取り、水分が残らないように乾いた布でふき取ってください。

または、台所用中性洗剤を含ませたスポンジ、布などのやわらかい物でふき取り、洗剤が残らないように水ぶきし、水分が残らないように乾いた布でふき取ってください。

※表面についた煮こぼれなどの汚れをそのままにしておくと、こびりついて取れにくくなり、シミが残ることがあります。

使用のたびにこまめにふき取ってください。

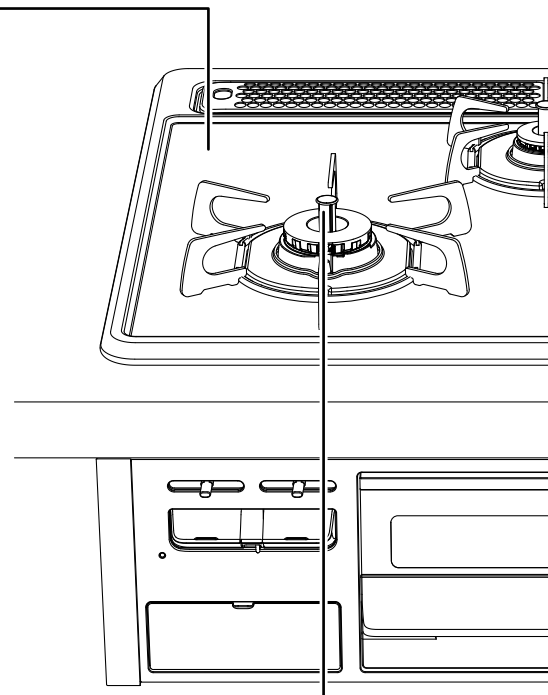
とくに砂糖などを含んだ濃い汁は、すぐにふき取ってください。

焼きついて掃除が困難になります。

お願い

トッププレートには、安全に関するラベルが貼り付けてあります。

もし、はがれたり、読めなくなった場合は、お買い上げの販売店または、コンタクトセンター(0120-38-8180)に連絡してください。貼り替える場合は、トッププレートの汚れをふき取り、同じ場所に貼り付けてください。



バーナー部

バーナーキャップ

- ・台所用中性洗剤を含ませた布やスポンジで汚れをふき取ったあと、洗剤が残らないように水ぶきし、水分が残らないように乾いた布でふき取ってください。

※水分が残ったまま取り付けると、点火不良や不完全燃焼の原因になります。

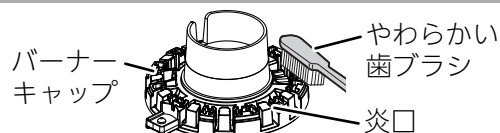
取れにくい汚れのとき

- ・台所用中性洗剤で丸洗いしたあと、洗剤が残らないように水洗いし、水分が残らないように乾いた布でふき取ってください。

目づまりしたとき

- ・凹部や溝部は、やわらかい歯ブラシなどでお手入れしてください。
こびり付いた汚れは、つまようじなどで取り除いてください。

※目づまりや汚れは、点火不良や不完全燃焼の原因になります。



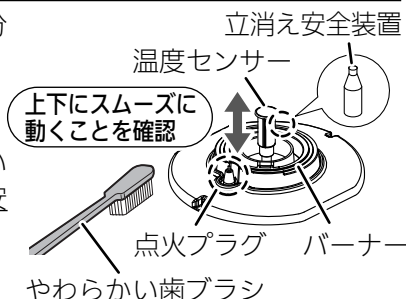
バーナー、点火プラグ、立消え安全装置、温度センサー

- ・水を含ませて、かたくしぼった布で煮こぼれなどの汚れをふき取ったあと、水分が残らないように乾いた布で再度ふき取ってください。

※温度センサーをお手入れするときは、温度センサーが曲がらないように、片手を添えてください。

※洗剤などは使用しないでください。

※点火プラグ、立消え安全装置、温度センサーはキズつけたり、衝撃をあたえないようにしてください。位置が変わったり、傾くと点火不良の原因になったり、安心・安全機能が正しくはたらかないおそれがあります。



取れにくい汚れのとき

- ・立消え安全装置や点火プラグは、やわらかい歯ブラシなどでお手入れしてください。

※点火プラグをお手入れするときは、十分注意してください。点火プラグの先端はとがっているため、けがをする原因になります。

※点火プラグ、立消え安全装置の汚れは、点火不良や不完全燃焼の原因になります。

⚠注意



必ず守る

温度センサーは、こまめにお手入れし、上下にスムーズに動くことを確認する
鍋底に温度センサーが密着しなくなり、調理油が発火する場合があります。

また、動きが悪いと鍋などが傾き、お湯などがこぼれ、やけどの原因にもなります。
密着しない場合、点検、修理を依頼してください。

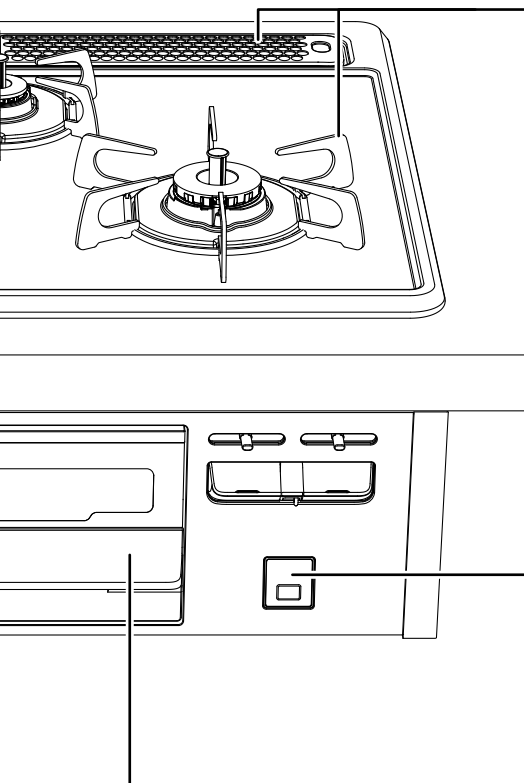
◎お手入れの前には、

・機器が冷めていることを確認する ・ガス栓を閉める ・点火／消火ボタンをロックする(18ページ) ・手袋をする

◎汚れたら、その都度きれいにお手入れする

◎お手入れをしたあとは、洗剤や水分が残らないようにする

◎部品を取り付けたあとは、浮き(傾き)がないことやグリルとびらがスムーズに開閉できることを確認する



ごとく、グリル排気口カバー

・台所用中性洗剤を含ませた布やスポンジで汚れをふき取ったあと、洗剤が残らないように水ぶきし、水分が残らないように乾いた布でふき取ってください。

※汚れがついたまま使用すると、汚れが落ちにくくなります。

取れにくい汚れのとき

・台所用中性洗剤で丸洗いしたあと、洗剤が残らないように水洗いし、水分が残らないように乾いた布でふき取ってください。

それでも汚れが取れないとき

・煮洗いするとさらに汚れが取れやすくなります。
水を入れた大きめの鍋で約30分加熱し、冷ましてから取り出し、水洗いして水気をふき取ってください。

※表面が変色することがありますが、使用上問題ありません。

※ごとく、グリル排気口カバー以外は、煮洗いしないでください。



機器表面、操作部

・乾いた布でよくふいてください。

取れにくい汚れのとき

・台所用中性洗剤を含ませた布で汚れをふき取ったあと、洗剤が残らないように水ぶきし、水分が残らないように乾いた布でふき取ってください。

グリルとびら、グリル焼網、グリル受け皿

・水を含ませたスポンジ、布などのやわらかい物でふき取り、水分が残らないように乾いた布でふき取ってください。
または、台所用中性洗剤を含ませたスポンジ、布などのやわらかい物でふき取り、洗剤が残らないように水ぶきし、水分が残らないように乾いた布でふき取ってください。

※必ずグリルとびらからグリル受け皿を取り外し、お手入れしてください。そのままお手入れすると、変形や損傷の原因になります。

※汚れたまま放置したり、使用したりすると、汚れが取れにくくなり、シミが残る原因になったり、脂汚れで発火することがあります。

取れにくい汚れのとき

・台所用中性洗剤で丸洗いしたあと、洗剤が残らないように水洗いし、水分が残らないように乾いた布でふき取ってください。

グリル庫内(側部、底部)

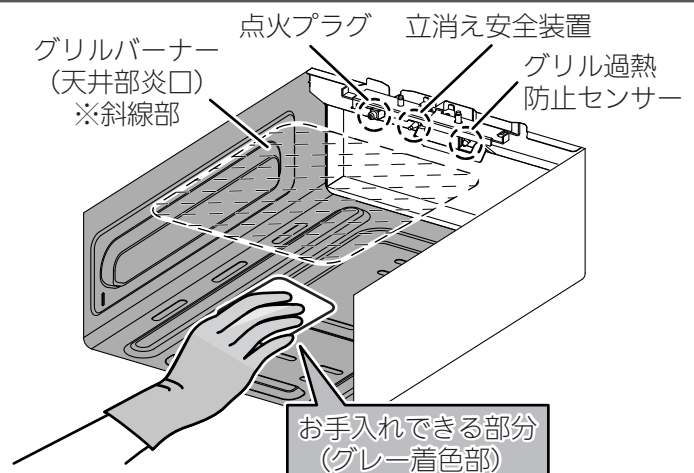
・水を含ませたスポンジ、布などのやわらかい物でふき取り、水分が残らないように乾いた布でふき取ってください。

または、台所用中性洗剤を含ませたスポンジ、布などのやわらかい物でふき取り、洗剤が残らないように水ぶきし、水分が残らないように乾いた布でふき取ってください。

※燃焼部(グリルバーナー)には触らないでください。

炎口がつまり燃焼不良、途中消火の原因になります。

また、グリル庫内のグリル過熱防止センサー、立消え安全装置、点火プラグにも触らないでください。位置が変わったり、傾くと点火不良の原因になったり、安心・安全機能が正しくはたらかないおそれがあります。



※図はわかりやすくするため、グリル庫内天井部を透過させています。

よくあるご質問

とくに多いご質問です

ご質問	回答	参照ページ
・使用していないのにブザー音がする	お知らせ機能がはたらいっているためです。 自動消火した場合、点火／消火ボタンを戻し忘れると、1分おきにブザー音『ピピッ』(5回)でお知らせします。 <u>戻し忘れたまま放置すると、乾電池の消耗が早くなります。</u> 必ず点火／消火ボタンを押し、「消火の状態」に戻してください。 ※他のバーナーを使用中は、ブザー音は鳴りません。	15
・勝手に火が小さくなったり、火が消えたりする	安心・安全機能がはたらいっているためです。 自動的に火力を弱火に調節したり、自動消火し、高温になり過ぎることを防止します。 また、高温炒めキーを押すと、通常時より高温での調理ができますが、異常過熱を防止するために自動的に火力を弱火にします。また、温度センサーの温度が上がりすぎたり、約60分(高温で自動火力調節している状態の場合は約30分)連続使用すると、消し忘れ消火機能がはたらき自動消火します。 ※自動火力調節で弱火になっている場合は、火力を強くしても受け付けません。 ※火力調節位置より一瞬炎が大きくなる場合があります。異常ではありません。	14・21
・電池交換サインが点滅している	乾電池が消耗しているためです。 新品のアルカリ乾電池(単1形：2個)と交換してください。 乾電池を交換する(電池交換サイン点滅)めやすは約1年です。(付属の乾電池は、お試し用のため、新品のアルカリ乾電池と比較して寿命が短くなります。)	16

全体	ご質問	詳細の番号	回答	参照ページ
	点火すると他のバーナーも、スパーク(パチパチ)する	—	1カ所の点火操作ですべてのバーナーでスパークします。異常ではありません。	—
	点火／消火ボタンから手を放してもスパーク(パチパチ)する	—	点火／消火ボタンから手を放してもスパークが続きます。(コンロ：最長約5秒、グリル：最長約7秒) 異常ではありません。	—
	点火しない ご質問の詳細 ① 点火しない ② 点火しにくい ③ スパーク(パチパチ)しない ④ 点火してもすぐ消える	①② ③④	乾電池が消耗しています。 新しいアルカリ乾電池(単1形：2個)に交換してください。	16
			煮こぼれなどによりバーナーの炎口がつまっていたり、点火プラグ、立消え安全装置、バーナーキャップがぬれたり、汚れたりしていると、点火しない場合があります。お手入れしてください。	33
			バーナーキャップが傾いたり、浮いたりしていないか確認し、正しく取り付けてください。	30
			点火／消火ボタンを止まるまでいっばいに押し、「点火の状態」にしてください。	20・26
			アルミはく製する受けは使用できません。 使用しないでください。	6

次の現象に当てはまらないとき、また処置をしてもなお異常があるときは、お買い上げの販売店または、コンタクトセンター(0120-38-8180)に連絡してください。

ご質問

点火しない

ご質問の詳細

- ① 点火しない
- ② 点火しにくい
- ③ スパーク(パチパチ)しない
- ④ 点火してもすぐ消える

炎の状態がおかしい

ご質問の詳細

- ① 炎が安定しない
- ② 炎が黄色い、赤い
- ③ 異常音をたてて燃える、消える
- ④ 炎が均一でない
- ⑤ 使用中炎が消える
- ⑥ 鍋にすすがつく

詳細の 番号

回答

参照 ページ

①②	ガス栓を閉めていると点火できません。 ガス栓を全開にしてください。	18・24
	LPガスを使用の場合で、LPガスがなくなりかけているときは、使用のLP事業者にお問い合わせください。	—
	長期間使用していなかったり、朝一番など、ガス配管に空気が残っている場合がありますので、点火操作を繰り返してください。	—
	①③ ロックされていると点火できません。 ロックを解除してください。	18・24
④	温度センサーが高温になり、安心・安全機能がはたっています。温度センサーの温度が下がるまで、点火してもすぐ消火します。しばらく(グリルは約3分)待ってから、再度点火してください。	—
①② ③④ ⑤⑥	煮こぼれなどによりバーナーの炎口がつまっていたり、点火プラグ、立消え安全装置、バーナーキャップがぬれたり、汚れたりしていると、正常に燃焼しない場合があります。お手入れしてください。	33
	バーナーキャップが傾いたり、浮いたりしていないか確認し、正しく取り付けてください。	30
①② ③④ ⑤	風が吹き込んだり、エアコンや扇風機などの風がコンロの炎に当たらないように配慮して使用してください。	8
②④ ⑤⑥	アルミはく製する受けは使用できません。 使用しないでください。	6
①④	バーナーの炎が一部短くなっています。 異常ではありません。	—
②⑤	使用中は換気してください。	7
	火力調節つまみをはやく操作すると、炎が赤くなったり、消火する場合があります。異常ではありません。 ゆっくり操作してください。	—
②	加湿器を使用すると水分に含まれるカルシウムが燃えて炎が赤くなることがあります。異常ではありません。	—
	グリル使用時にコンロを使用すると、調理物の塩分(ナトリウム)やカルシウムが燃えて、炎が赤くなります。異常ではありません。	
	グリルを使用すると、調理物の塩分(ナトリウム)やカルシウムが燃えて、グリルの炎が黄色くなります。異常ではありません。	
	火力調節時に一瞬炎が黄色くなったり大きくなる場合があります。異常ではありません。	
⑤	グリル使用時にグリルバーナーの温度が高くなると、グリルの炎が黄色くなります。異常ではありません。	12
	弱火の状態、機器下のキャビネットとびらやグリルとびらをはやく開閉すると、消火する場合がありますのでゆっくり開閉してください。	

よくあるご質問

全体

コンロ

ご質問	詳細の 番号	回答	参照 ページ
すぐに消火しない	—	バーナー内部に残ったガスが燃焼しているためです。異常ではありません。	—
強火になったとき、一瞬炎が大きくなる	—	バーナー内のガスが一度に出されるためです。異常ではありません。	—
部品が変色する ご質問の詳細 ① 表面が変色する ② ごとくが変色する ③ トッププレートに跡が付く	①②	酸性やアルカリ性洗剤は使用しないでください。台所用中性洗剤以外の洗剤を使用されると、変色する場合があります。	28
	①②	ごとく先端は、炎が当たり、変色したり、ざらざらになります。異常ではありません。ごとくなどは消耗部品です。交換部品として販売しています。	45
	②	煮洗いや食器洗い乾燥機で洗う場合などは、変色したり、ツヤがなくなる場合がありますが、使用上問題ありません。	27・34
	③	ごとくとトッププレートが接触している場所に、跡が付くことがあります。使用上問題ありません。	12
トッププレートが熱くなる	—	グリルからの熱でトッププレートが熱くなる場合があります。また、1カ所のみコンロを使用している場合でも、使用していないコンロ側のトッププレートも熱伝導で熱くなる場合があります。使用中や使用直後はトッププレートに触らないよう注意してください。	7
市販の焼網が使えない	—	もちなどはグリルで調理してください。グリルに入らない大きなすやパプリカなどは、フォークや金串に刺し高温炒めモードを使用し、コンロ上で直火調理(あぶりもの)してください。(右コンロ)	21
コンロ使用時に… ご質問の詳細 ① 調理中に消火する ② 油が高温になっていても自動消火しない ③ 点火してもすぐ消える ④ 自動で火力が変わる ⑤ 鍋底の焦げつきがきつい	①②	鍋の形状や材質が適しているか確認してください。	17
	③④	鍋底が温度センサーと密着していることを確認してください。	9
	⑤	鍋底や温度センサーが汚れていないか確認し、汚れている場合はお手入れしてください。	33
	①③	温度センサーが高温になり、安心・安全機能がはたらいています。温度センサーの温度が下がるまで点火してもすぐ消火します。しばらく待ってから再度点火してください。	14
	①⑤	焦げつき自動消火機能は、鍋の材質や調理により焦げつきの程度がかわります。カレー、シチュー、カラメル、みそなどの水分が少ない料理は焦げやすくなります。弱火でときどきかき混ぜながら調理してください。	14・17
	①⑤	鍋底が焦げついていないか確認してください。焦げつきや空だきの場合、焦げつき自動消火機能がはたらいて、自動的に消火します。	14

次の現象に当てはまらないとき、また処置をしてもなお異常があるときは、お買い上げの販売店または、コンタクトセンター(0120-38-8180)に連絡してください。

ご質問		詳細の 番号	回答	参照 ページ
コン ロ	コンロ使用時に…(続き)			
	ご質問の詳細			
	① 調理中に消火する	①	点火後約120分(高温で自動的に火力調節している場合は約30分)で自動消火し、消し忘れを防ぎます。	14
	② 油が高温になっていても自動消火しない		弱火の状態、機器下のキャビネットとびらやグリルとびらをはやく開閉すると、消火する場合がありますのでゆっくり開閉してください。	12
	③ 点火してもすぐ消える	①	冷凍した調理物をそのまま調理した場合、調理中に消火することがありますので、解凍してから調理してください。	—
	④ 自動で火力が変わる		無水鍋や多層鍋、土鍋や耐熱ガラス容器、圧力鍋を使用すると、まれに焦げつき自動消火機能がはたらき、調理中に消火することがあります。	14・17
グ リ ル	⑤ 鍋底の焦げつきがきつい	③	後コンロは、鍋を置かずに点火した場合、しばらくすると消火します。鍋を置いて再度点火してください。	—
		④	左右コンロは、鍋の温度が高温になると、過熱防止のため自動的に火力を切り替えます。弱火と強火を繰り返し、この状態が約30分続くと自動消火します。	14
		⑤	鍋底にこんぶや竹皮などを敷くと焦げつきがきつくなる場合があります。ときどきかき混ぜて火加減を調節し、様子を見ながら調理してください。	—
	グリル使用時に…	②③ ④⑤ ⑦	グリルとびらは確実に閉めてください。	24
	ご質問の詳細	①② ③	調理物の数や形状によって、置きかたを調節してください。	23
	① 焼けすぎる	③	調理物に合った火力に調節してください。	25
	② 焼け足りない	②③	グリル排気口カバーを正しく取り付けてください。また、グリル排気口カバーの上に鍋などを置いたり、エアコンや扇風機などの風があたらないように配慮して使用してください。	29
	③ 焼きムラがある	①	みそ(かす)漬けの魚は、焦げやすいので、みそ(かす)は取ってから焼いてください。	23
	④ 煙やにおいが出る	②	冷凍の調理物はしっかりと解凍し、冷蔵の調理物は常温でしばらく置いてください。	
	⑤ 火力が変わらない	③	グリル焼網を正しく取り付けてください。	32
	⑥ 調理中に消火する	④	脂の多い調理物を焼くと煙が多く出るため、グリル排気口以外からも煙が出る場合があります。異常ではありません。	—
	⑦ 点火しない		初めてグリルを使うときは、煙やにおいが出る場合がありますが、グリル庫内の金属部品に残った加工油によるものです。異常ではありません。	23
			グリル庫内やグリル受け皿が汚れていないか確認し、お手入れしてください。残った調理物などが焦げて、煙やにおいが出る場合があります。	34

よくあるご質問

ご質問		詳細の 番号	回答	参照 ページ
グリル	グリル使用時に…(続き) ご質問の詳細 ① 焼けすぎる ② 焼け足りない ③ 焼きムラがある ④ 煙やにおいが出る ⑤ 火力が変わらない ⑥ 調理中に消火する ⑦ 点火しない	⑥	連続の使用などでグリル庫内が高温になっている場合は、グリル庫内が冷めるまで、しばらく(約3分)待ってから使用してください。	15・25
			調理中は、温度コントロールのため高温になると、自動消火することがあります。異常ではありません。	
			脂の出る料理には、グリル焼網の上や下にアルミはくを敷かないでください。グリルバーナーの炎口がつまり、燃焼不良、途中消火の原因になります。	10
		⑦	弱火の状態、機器下のキャビネットとびらやグリルとびらをはやく開閉すると、消火場合がありますのでゆっくりと開閉してください。	12
			コンロにくらべて点火に時間がかかります。異常ではありません。	—
			機器が冷えている状態で点火すると、グリルバーナーの火がつかない場合がありますが、異常ではありません。再度点火してください。	
		—	乾電池が消耗しているためです。乾電池を交換してください。乾電池を交換する(電池交換サイン点滅)めやすは約1年です。(付属の乾電池は、お試し用のため、新品のアルカリ乾電池と比較して寿命が短くなります。)	16
乾電池	使用時に『ピー』というブザー音とともに、電池交換サインが点滅する	—	乾電池に記載されている使用推奨期限を確認してください。未使用の乾電池でも、古くなった乾電池は消耗しますので、新しいアルカリ乾電池(単1形:2個)に交換してください。	16
	乾電池を交換しても電池交換サインが点滅する	—	乾電池に記載されている使用推奨期限を確認してください。未使用の乾電池でも、古くなった乾電池は消耗しますので、新しいアルカリ乾電池(単1形:2個)に交換してください。	16
におい	使用中、においがする ご質問の詳細 ① ガスのにおいがする ② いやなにおいがする	①	すぐに使用をやめ、ガス栓を閉めてからお買い上げの販売店または、コンタクトセンター(0120-38-8180)に連絡してください。	5
		②	風が吹き込んだり、エアコンや扇風機などの風がコンロの炎に当たらないように配慮して使用してください。	8
			バーナーキャップなどに煮こぼれや水滴がついていないか確認し、お手入れしてください。また、お手入れしたあとは、洗剤や水分が残らないようにしてください。	33
			周囲に燃えやすいものやプラスチック製品などがないか確認してください。	6

次の現象に当てはまらないとき、また処置をしてもなお異常があるときは、お買い上げの販売店または、コンタクトセンター(0120-38-8180)に連絡してください。

ご質問		詳細の番号	回答	参照ページ
音	使用中、消火後に音がする			
	ご質問の詳細			
	① 消火後に「ピピッ」(5回)とブザー音がする	①	点火／消火ボタンを戻し忘れていないか確認してください。 点火／消火ボタンを戻し忘れると、1分おきにブザー音『ピピッ』(5回)でお知らせします。 ※安心・安全機能のはたらきにより火が消えたときは、必ず点火／消火ボタンを押し、「消火の状態」に戻してください。 戻し忘れたまま放置すると、乾電池の消耗が早くなります。 ※他のバーナーを使用中は、ブザー音は鳴りません。	15
	② 「ポン」、「ボッ」と音がする	②	コンロバーナーのガスに着火する際や、ガスが燃え尽きる際に発生する音です。異常ではありません。	—
	③ 「カチッ」と音がする	③	バーナーキャップが正しく取り付けされていないと、音がする場合があります。	30
	④ キシミ音がする	④	火力を切り替える動作音です。異常ではありません。	—
	⑤ 「シャー」と音がする	⑤	点火後や消火後にキシミ音がでますが、加熱や冷却されるときに、金属が膨張収縮して起こる音です。異常ではありません。	
	⑥ 点火初期に「ポッポッ」と音がする	⑥	コンロバーナー使用中「シャー」と音がしますが、燃焼するガスの通過音です。異常ではありません。	
		⑥	機器が冷えている状態で点火すると、しばらく音がする場合がありますが、温まると音はなくなります。異常ではありません。	
	グリル使用中に、調理物の脂の「パチパチ、ジュージュー」とはねる音がする	—	調理物に含まれている水分が油と接触して、蒸発する音です。異常ではありません。	—
	グリル点火時に「ボッ」と音がする	—	グリルがあたたまった状態で点火すると音がする場合がありますが、ガスがバーナーに着火するときの音です。異常ではありません。	—
	グリル使用中に「ポッポッポッ」と音がする	—	火力により、「ポッポッポッ」と音がする場合がありますが、燃焼するときの音です。異常ではありません。	—

ブザー報知とお知らせ表示

※お知らせ表示は、点火／消火ボタンを「消火の状態」に戻すまで点滅が続きます。

ブザー音	お知らせ表示	部 位	内 容	
《ピピッ》 (5回)	—	コンロ、グリル	点火／消火ボタン 戻し忘れブザーの作動	
《ピー》 (1回)	—	コンロ	消し忘れ消火機能の作動	
		グリル	消し忘れ消火機能の作動	
		右コンロ	高温炒めモードで消し忘れ消火機能の作動	
	電池交換サイン 	—	電池交換のお知らせ	
《ピー》 (2回)	—	コンロ、グリル	立消え安全装置の作動	
《ピー》 (3回)	—	コンロ、グリル	点火時に着火しなかった	
《ピー》 (4回)	—	コンロ、グリル	点火／消火ボタンを 長く押し続けている	
		コンロ	調理油過熱防止装置の作動 焦げつき自動消火機能の作動	
		グリル	グリル過熱防止センサーの作動	
《ピー》 (約10秒間 繰り返し)	—	コンロ、グリル	操作部、温度センサー、 グリル過熱防止センサーの故障	
ブザーが 鳴り続ける 《ピー—》 (約10秒間)	—	コンロ、グリル	電子部品の故障	

原 因	処 置 と 再 使 用 時 の 注 意	参照ページ
安心・安全機能のはたらきにより火が消えたときなどで、点火／消火ボタンが「点火の状態」のままになっている。	点火／消火ボタンを押し、「消火の状態」に戻してください。	15
点火後、約120分連続使用した場合など。	点火／消火ボタンを押し、「消火の状態」に戻してください。 コンロを続けて使用する場合は、再度点火してください。 グリルを続けて使用する場合は、しばらく(約3分)待ってから再度点火してください。	14
点火後、約25分連続使用した場合など。		
設定後、約60分連続使用した場合など。		
乾電池の容量が少なくなってきたとき。	乾電池を交換してください。	16
炎のふき消え、煮こぼれした場合など。	点火／消火ボタンを押し、「消火の状態」に戻してください。 ガス栓が閉まっていると着火しません。 点火／消火ボタンを止まるまでいっばいに押し、「点火の状態」にしてください。	14・33
ガス栓が閉まっている、点火／消火ボタンの押し込みが足りない、煮こぼれによる炎口つまり、煮こぼれによる点火プラグの汚れ、着火不良など。	また、バーナーキャップ、点火プラグなどが汚れていると、着火しない場合があります。お手入れしてください。 続けて使用する場合は、十分換気し、しばらく待ってから再度点火してください。	18・20 24・26 33
点火／消火ボタンを長く押し続けたとき。	手を離してください。 点火／消火ボタンを押し、「消火の状態」に戻してください。	—
調理油の過熱、焦げつき、消し忘れによる過熱、空焼きなど。	点火／消火ボタンを押し、「消火の状態」に戻してください。 よくあるご質問 「コンロ」「コンロ使用時に・・・」 ①調理中に消火する⑤鍋底の焦げつきがきついを確認してください。 調理油過熱防止装置がはたらいて消火した場合は、温度センサーが高温のため、点火しても消火する場合があります。冷めるのを待ってから再度点火してください。	14・37 38
グリルの空焼き、消し忘れによる過熱、調理物が少ない場合、連続して使用した場合など。	点火／消火ボタンを押し、「消火の状態」に戻してください。 消火してすぐ(グリル過熱防止センサーが高温のままの状態)は、点火してもすぐに消火します。 しばらく(約3分)待ってから再度点火してください。	15
部品が故障している。	点検が必要です。 使用をやめ(点火／消火ボタンを押し、「消火の状態」に戻す)、ガス栓を閉め、お買い上げの販売店または、コンタクトセンター(0120-38-8180)に連絡してください。	—

上記の処置方法で直らないときは、お買い上げの販売店または、コンタクトセンター(0120-38-8180)に連絡してください。

長期間使用しない場合／仕様

長期間使用しない場合

- ・ガス栓を閉め、乾電池を取り出してください。
乾電池を入れたままにすると、乾電池の液漏れにより、機器をいためる原因になります。
- ・機器が冷めていることを確認し、各部の汚れを取り除き、ほこりや異物が入らないようにビニールなどをかけてください。
再度使用される場合は、ビニールなどを完全に取り外し、乾電池を入れてから使用してください。

仕様

商 品 名	ビルトインガスコンロ		
品 番	SG32T1V	SG32T1L	EG32T1V
型 式 名	DG32T1V		
点 火 方 式	連続スパーク点火		
安 心 ・ 安 全 機 能	全バーナー ・立消え安全装置 ・ロック機能 コンロバーナー ・調理油過熱防止装置 ・コンロ消し忘れ消火機能 ・焦げつき自動消火機能 左右コンロバーナー ・中火点火機能 グリルバーナー ・グリル消し忘れ消火機能 ・グリル過熱防止センサー		
お 知 ら せ 機 能	・点火／消火ボタン戻し忘れブザー ・グリル使用中お知らせブザー		
付 属 品	・取扱説明書(保証書付) ・取付設置説明書 ・お試用乾電池(単1形マンガン乾電池：2個)		
外 形 寸 法	高さ272mm×幅596mm×奥行492mm (トッププレート幅593mm)		
質 量	15kg(本体)		

使 用 ガ ス グ ル ー プ			ガス消費量(kW)				ガス 接続口
			左右コンロ	後コンロ	グリル	全点火時	
都 市 ガ ス 用	13 A		4.20 {3,610kcal/h}	1.28 {1,100kcal/h}	1.28 {1,100kcal/h}	9.88 {8,500kcal/h}	Rc1/2
	12 A		3.90 {3,350kcal/h}	1.20 {1,030kcal/h}	1.20 {1,030kcal/h}	9.21 {7,920kcal/h}	
L P ガ ス 用			4.20 {0.301kg/h}	1.28 {0.092kg/h}	1.28 {0.092kg/h}	9.88 {0.708kg/h}	

※本仕様は改良のためお知らせせずに変更することがありますがご了承ください。

アフターサービス／廃棄時のお願い

アフターサービス

保証書

46ページが保証書となっています。

- ・保証書に記載されているように、一定期間、一定条件のもとに無料修理いたします。保証書をなくされますと無料修理期間であっても修理費をいただく場合がありますので、大切に保管してください。
- ・保証期間は
お引き渡し日から本体1年間
本製品は一般家庭用の製品です。使用頻度の高い業務用にご使用の場合は対象外となります。

修理を依頼される時

- ・万一故障と思われることがありましたら、35～40ページに従って調べてください。なお、異常のあるときは、ガス栓を閉めてから下記のコンタクトセンターへ連絡してください。
- ・保証期間中は
保証書の規定に従って出張修理をさせていただきます。下記のコンタクトセンターへ連絡してください。
- ・保証期間が過ぎているときは
修理すれば使用できる製品については、有料で修理致します。下記のコンタクトセンターへ連絡してください。
- ・補修用性能部品の保有期間
製造打ち切り後5年です。（性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。）
- ・アフターサービスなどについておわかりにならないとき
下記のコンタクトセンターへ連絡してください。

⚠注意



ユニットのネジを取り外して、自分で修理は、絶対にしない

禁止

転居される時

転居後もこの機器をご使用になられる場合には、下記のコンタクトセンターへ相談してください。

- ・ガスの種類の異なる地域へ転居される時
ガスの種類は、LPガス、都市ガスがあり、改造・調整が必要です。そのままお使いになりますと、正常な働きをしないだけでなく、故障、不完全燃焼、火災などの原因にもなります。
- ・この機器は13A(12A)・LPガスのみの仕様です。他のガス種には調整・改造できません。

・転居される時の改造・処置一覧

		改造・処置	費用
ガスの種類	異なる	ガス転換後	有料※
	同じ	不要	—

アフターサービスについてのお問い合わせは

コンタクトセンター

サービスはハイパーマン

電話料金
無料

0120-38-8180

・受付時間／24時間サービス受付

この機器以外のサービス依頼はお買い上げの販売店・工事店にご連絡ください。

個人情報の取り扱いについて

- ご連絡いただいた個人情報はお問い合わせ対応に必要な範囲で使用し、当社規定により厳格に管理します。
なお、個人を特定できない情報に加工し、サービス向上や製品開発等に利用させていただきます。
- ご連絡いただいた個人情報に誤りがある場合、当社からご連絡できない場合があります。
- ご連絡いただいた個人情報は、以下の場合を除き、第三者に開示・提供致しません。
(1)修理や各種ご案内・お問い合わせ対応のために当社関係会社や販売店等へ連絡する場合
(2)機密保持契約を締結した外部業者に業務を委託する場合
(3)法令等に基づく場合

廃棄時のお願い

お願い

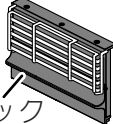
- ・機器を取り替えた場合、旧機器は専門の業者に処理を依頼してください。
もしお客さまで、旧機器の処理をする場合、乾電池を使用している機器は、乾電池を取り外してから正規の処理を行ってください。
そのままにしておきますと、思わぬ事故の原因になります。

交換部品／別売部品

- ・下記の交換部品はお客さまにてお取り替え可能な部品になります。
- ・お買い上げの販売店または、コンタクトセンター(0120-38-8180)にお問い合わせください。

部品がいたんだり、汚れが落ちにくくなってきたら、お早めに交換してください。

交換部品	商品名	形 状	商品番号
	ごとく(大) (左右コンロ用)		LG0F120030305
	ごとく(小) (後コンロ用)		DG3C120470300
	バーナーキャップ(大) (左右コンロ用)		DS0P32001000
	バーナーキャップ(小) (後コンロ用)		DS0P32002007
	グリル排気口カバー		DW3C120050609
	グリル焼網		DG3K33004104
別売部品	グリル受け皿		DG3K33003009

別売部品	商品名	形 状	商品番号
	魚すくって		LP0136
別売部品	ガード付きグリルとびら ※1 (カラー：ブラックのみ)	 ブラック	DP0154BA

・2022年8月現在の仕様です。仕様は予告なく変更される場合があります。あらかじめご了承ください。

※アルカリ乾電池(単1形)は電気店などでお買い求めください。

・交換部品(消耗部品)の詳細は『各部のなまえ』(3～4ページ)を参照してください。

※1：ガード付きグリルとびらのカラーはブラックのみとなります。

保証書

お客様へのお願い

1. 保証書に、お客様名、お引渡し年月日、販売店名が記入されていない場合は、お買上げいただいた販売店にお申し出ください。
2. 保証書の記載内容をよくお読みいただき、大切に保管してください。

ガス調理器具保証書

出張修理

品番	SG32T1V・SG32T1L・EG32T1V		
お客様	お名前		
	ご住所	〒	
	電話		()
お引渡し日	取扱販売店名・住所・電話番号		
年 月 日			
保証期間(お引渡し日)			
本体	1年間		

本書はお引渡し日から左記期間中故障が発生した場合には、下記記載内容で無料修理を行うことをお約束するものです。
詳細は下記をご参照ください。

<無料修理規定>

1. 取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書に従った使用状態で保証期間内に故障した場合には、無料修理をさせていただきます。
(イ) 無料修理をご依頼になる場合には、コンタクトセンターにて(株)ハーマンにお申しつけください。
(ロ) (株)ハーマンに無料修理をご依頼にならない場合には、お買上げの販売店にご連絡ください。
(ハ) この商品は、出張修理をさせていただきますので、修理に際し、本書をご提示ください。
2. ご転居の場合の修理ご依頼先は、(株)ハーマンまたは、お買上げの販売店にご相談ください。
3. ご贈答品などで本保証書に記入の販売店で無料修理をお受けになれない場合には、(株)ハーマンへご連絡ください。
4. 保証期間内でも次の場合には原則として有料にさせていただきます。
(イ) 使用上の誤りおよび不当な修理や改造による故障および損傷
(ロ) お買上げ後の取付場所の移設、輸送、落下などによる故障および損傷
(ハ) 火災、地震、風水害、落雷、その他天災地変および公害、異常気象、塩害、ガス害(硫化ガスなど)、異常電圧、指定外の使用電源(電圧、周波数)、ほこり、ねずみ・鳥・くも・昆虫類の侵入などによる故障および損傷
(ニ) 車両、船舶などに搭載された場合に生ずる故障および損傷
(ホ) 一般家庭用以外(例えば業務用など)に使用された場合の故障および損傷
(ヘ) 取付設置説明書および取扱説明書などに指示する方法以外の工事設計、または取付工事などが原因で生じた不具合、故障および損傷
(ト) 機器に示してあるガス(ガスグループ)以外のガス(ガスグループ)で使用された場合による故障および損傷
(チ) ガスの供給事情による故障および損傷
(リ) 指定以外の電池で使用された場合による故障および損傷
(ヌ) 消耗部品の取り替えおよび保守などの費用
(ル) 転居などによる熱量変更に伴う改造・調整の場合
(ヲ) 本書のご提示がない場合
(ワ) 本書にお引渡し年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書き替えられた場合
(カ) 離島または離島に準じる遠隔地へ出張修理を行う場合の出張に要する実費
5. 本書は日本国内においてのみ有効です。
6. 本書は再発行いたしませんので大切に保管してください。

修理メモ

※この保証書は、本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従ってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理についてご不明の場合は、お買上げの販売店または(株)ハーマンにお問い合わせください。

※保証期間経過後の修理や補修用性能部品の保有期間については、アフターサービスについてをご覧ください。

※This warranty is valid only in Japan.

製造元

株式会社

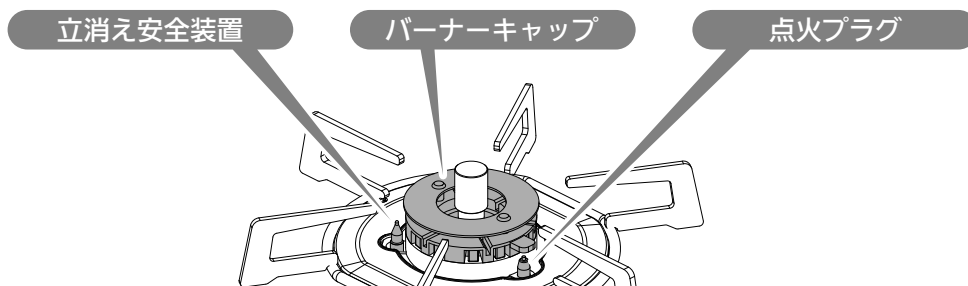
ハーマン

〒554-0023 大阪市此花区春日出南3-2-10 TEL 06(4804)8600

修理を依頼される前に確認してください

点火しないとき…

◎下記の部品が汚れていませんか？



バーナーキャップ 水洗い後、水気や汚れをふき取ってください。

立消え安全装置、点火プラグ 煮こぼれなどの汚れをふき取ってください。

水分は確実にふき取ってください。

※詳しくは、「お手入れ」ページを参照してください。

◎乾電池は交換されましたか？

新品のアルカリ乾電池(単1形：2本)と交換してください。

※詳しくは、「乾電池を交換する」ページを参照してください。



長年ご使用のガス機器の点検をぜひ！

- ・ときどきガスくさい。
- ・操作が不確実。
- ・焦げくさいにおいがする。
- ・点火しにくい。
- ・その他の異常や故障がある。

以上のような症状のときは、ガス栓を閉め、故障や事故防止のため、必ず販売店に点検、修理を相談してください。

製造元

株式会社 **ハーマン**

本社 〒554-0023 大阪市此花区春日出南3-2-10

修理・点検・商品についてのお問い合わせは…

株式会社ハーマン
コンタクトセンター

通話料金無料

0120-38-8180

携帯電話からのお問い合わせは… **0570-064-780** (通話料がかかります)

お問い合わせについて

■PHS・IP電話等でつながらない場合は、一般電話・携帯電話からおかけ直してください。 ■お問い合わせの内容確認と正確な対応のため、録音させていただく場合がございます。 ■正確な対応のため、発信電話番号通知をお願いしております。非通知設定をご利用の場合は、はじめに「186」をダイヤルし発信電話番号通知のご協力をお願いいたします。

(2201P)